

第V章

京都子育て環境ダツシユボード

● 広域地域

山城地域

南丹地域

中丹地域

丹後地域

● 市町村

京都市

福知山市

舞鶴市

綾部市

宇治市

宮津市

亀岡市

城陽市

向日市

長岡京市

八幡市

京田辺市

京丹後市

南丹市

木津川市

大山崎町

久御山町

井手町

宇治田原町

笠置町

和束町

精華町

南山城村

京丹波町

伊根町

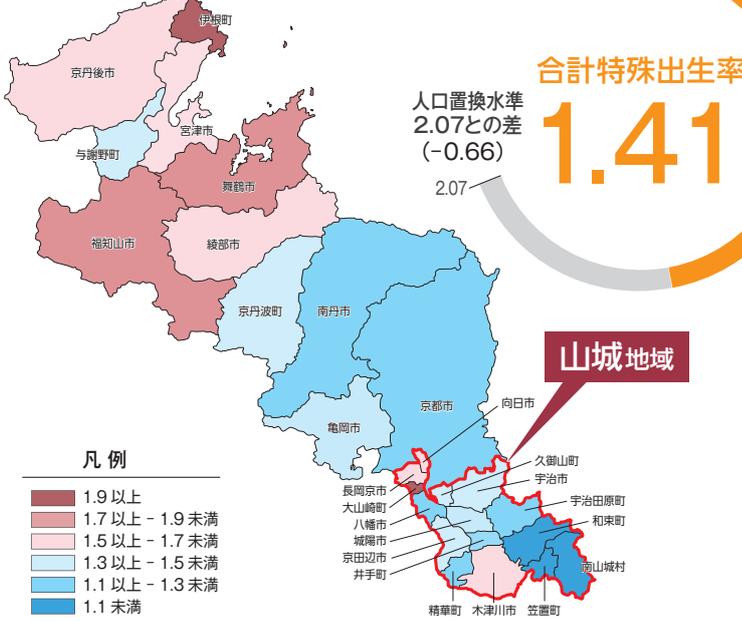
与謝野町

山城地域

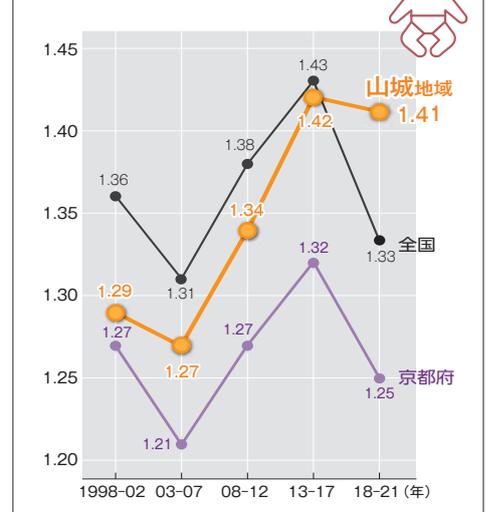
宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、木津川市、大山崎町、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村

● 出生率の概要

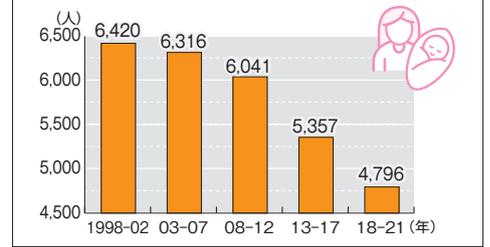
合計特殊出生率
(2018-2021年)



合計特殊出生率の推移



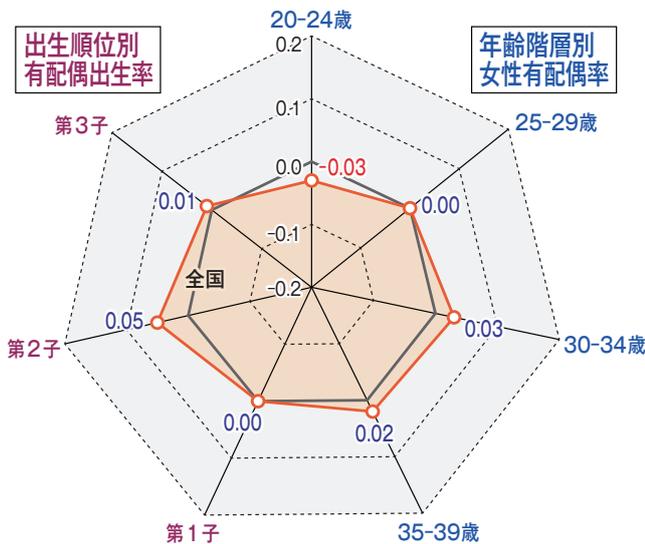
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



- 2018-21年の山城地域の合計特殊出生率は1.41と算出され、全国値を0.08ポイントとわずかに上回ります。一方、人口置換水準との差は-0.66ポイントに及びます。
- 1998-02年には全国を0.07ポイント下回っていましたが、2008-12年からの上昇率が全国より高くなりました。2018-21年は全国と同様、出生率が低下しています。

● 実態の見える化

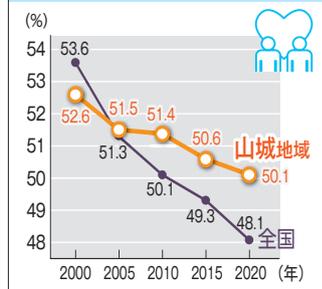
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



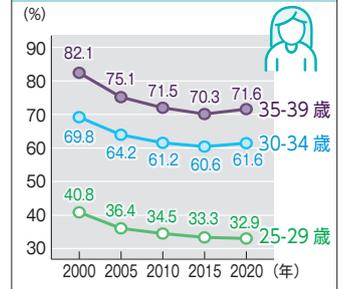
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 広域地域を構成している市町村数が多く、かつ、地域特性が多様であることがこの地域の特徴ですが、全体の出生構造をみると、20歳代の女性有配偶率が全国値をやや下回る中で、有配偶出生率のうち第2子の寄与が大きくなっています。
- 全国ほどではないものの女性有配偶率の低下傾向が続いており、一方の有配偶出生率も第1子を中心に大きく低下しています。

女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

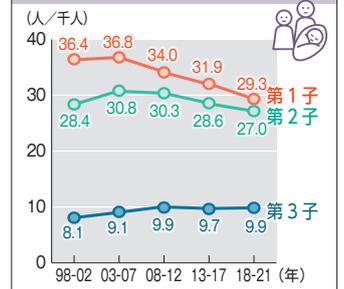


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

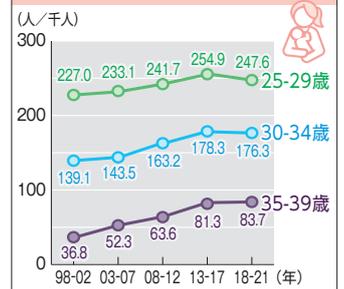


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

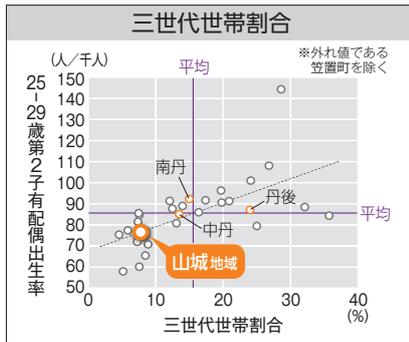
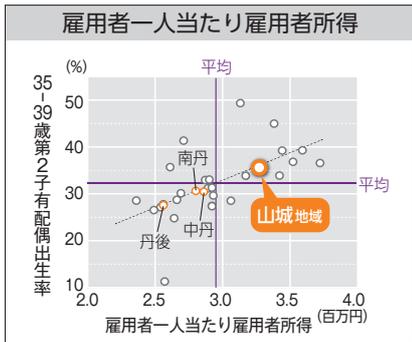
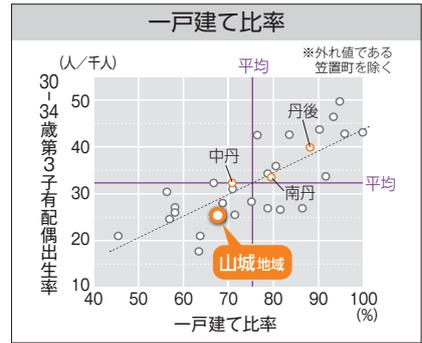
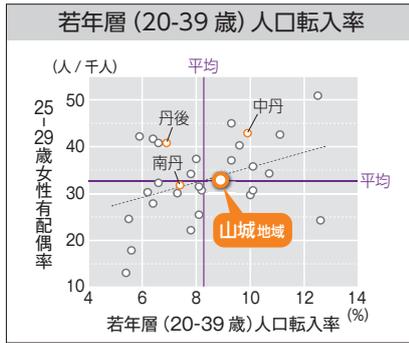
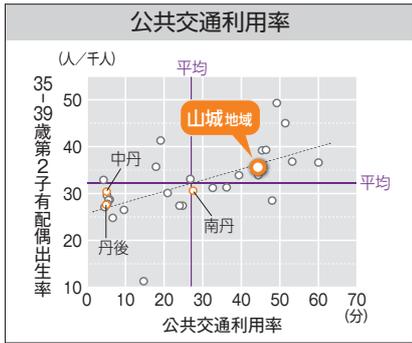
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



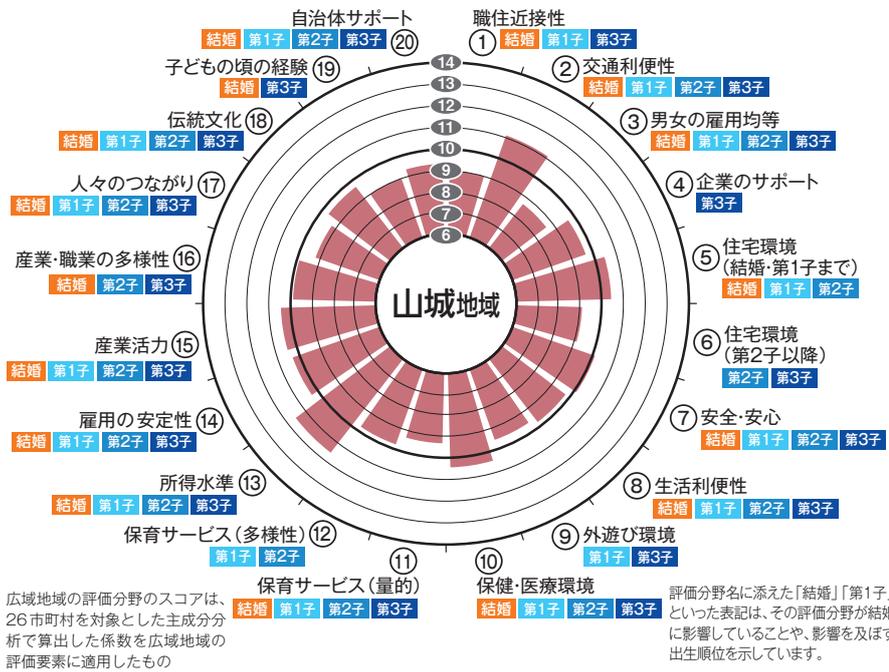
● 市町村で相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図に山城地域を置くと、公共交通利用率（交通利便性）、若年層（20-39歳）人口転入率（住宅環境（結婚・第1子まで））、雇用者一人当たり雇用者所得（所得水準）が平均より高く、一戸建て比率（住宅環境（第2子以降））、三世代世帯割合（子どもの頃の経験）は平均値を下回っている様子がわかります。

(注) 括弧の中は評価分野

(注) 1. 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照 2. 縦軸が有配偶出生率のとき、出生がない市町村は点を表記していない

● 目標の見える化

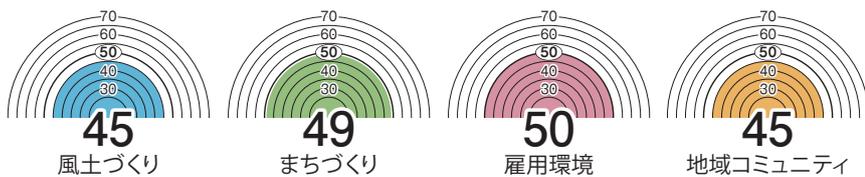
結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)



広域地域の評価分野のスコアは、26市町村を対象とした主成分分析で算出した係数を広域地域の評価要素に適用したものである。

評価分野名に添えた「結婚」「第1子」といった表記は、その評価分野が結婚に影響していることや、影響を及ぼす出生順位を示しています。

子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標 (Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family)

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

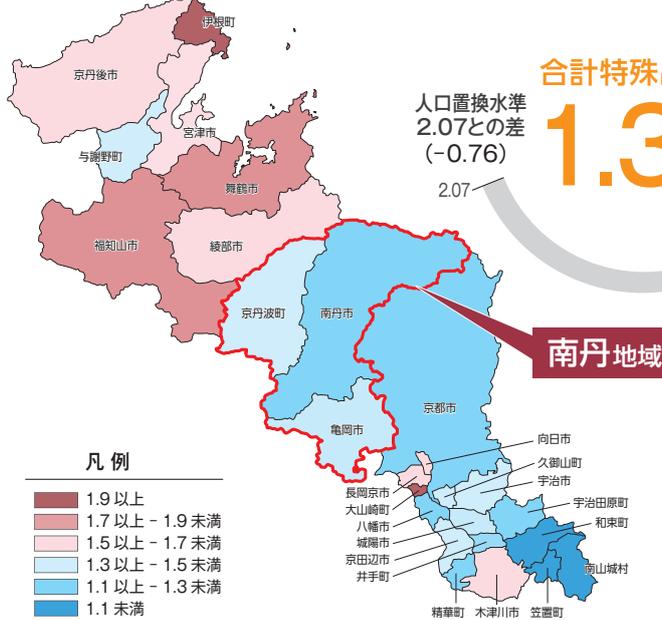
- 出生率に対する影響力が強い⑬所得水準をはじめ、⑭雇用の安定性、⑮産業活力といった雇用環境を構成する指標が市町村平均よりも高くなっています。加えて、②交通利便性、⑤住宅環境（結婚・第1子まで）（データ分析では第2子にも影響）、⑩保健・医療環境のスコアが平均を上回ることが第2子出生率等にプラスに影響していると考えられます。
- 半面、⑰以降の地域コミュニティ関連のすべてが平均を下回ることや、①職住近接性と③男女の雇用均等、⑥住宅環境（第2子以降）や保育サービス関連のスコアの低さが出生率にマイナスの影響を及ぼしていると考えられます。

南丹地域

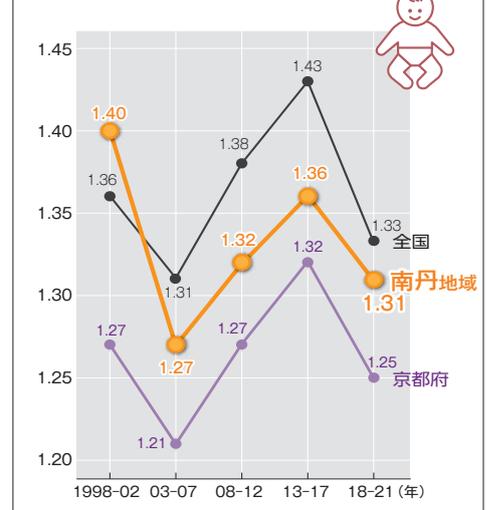
亀岡市、南丹市、京丹波町

● 出生率の概要

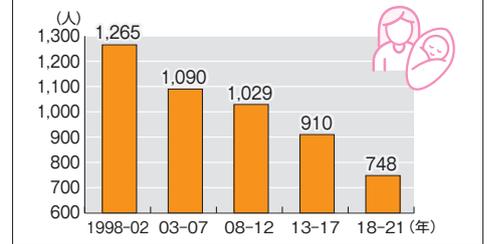
合計特殊出生率
(2018-2021年)



合計特殊出生率の推移



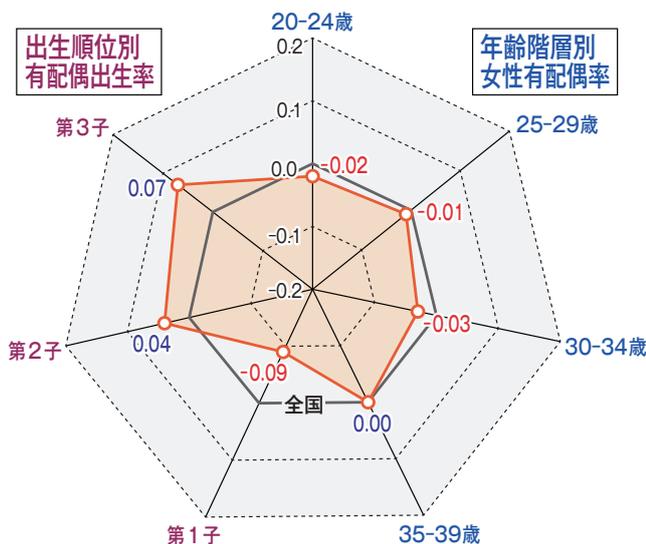
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



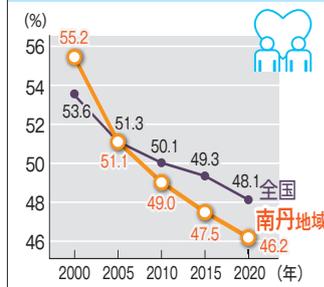
- 2018-21年の南丹地域の合計特殊出生率は1.31と算出され、全国値を下回るとともに、広域地域の中で最も出生率が低い地域になっています。人口置換水準との差も-0.76ポイントに及びます。
- 1998-02年には全国値を上回っていましたが、2003-07年に出生率が大きく低下し、それ以降、全国を下回る水準で推移するようになりました。

● 実態の見える化

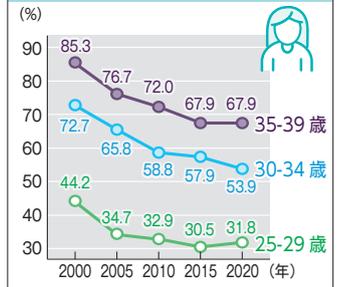
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



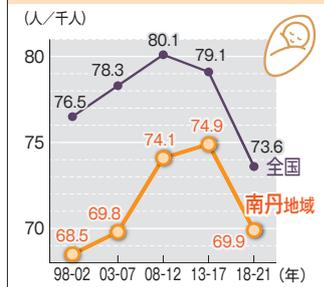
女性有配偶率(15-49歳)の推移



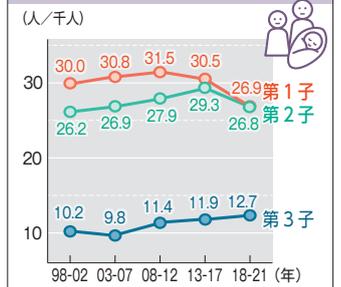
年齢階層別女性有配偶率の推移



有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

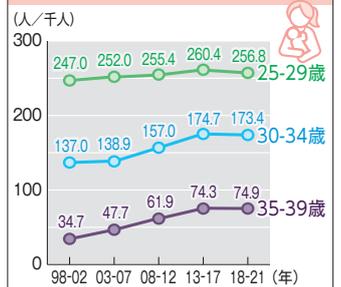


出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

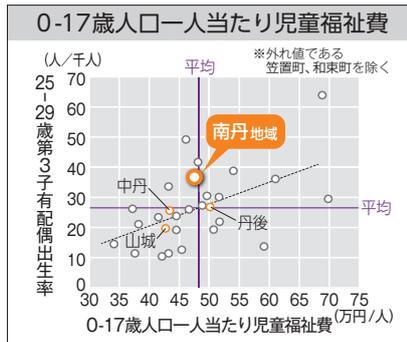
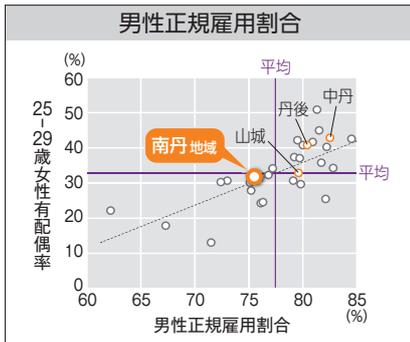
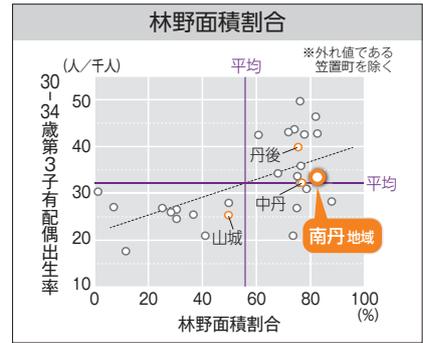
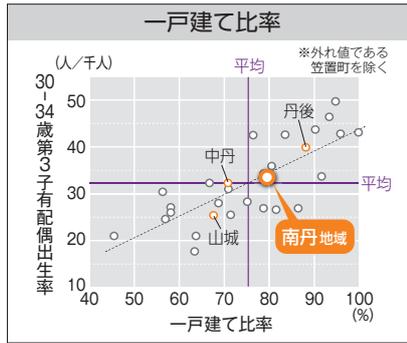
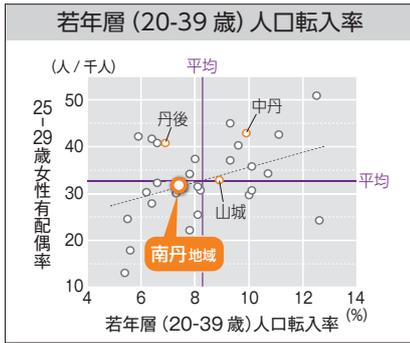
母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、女性有配偶率は34歳以下の年齢階層で全国を下回ります。有配偶出生率は第2子・第3子がプラス寄与であるのに対し、第1子がマイナス寄与となっています。
- 1998-02年から2003-07年への変化等、この地域で出生率が大きく低下した大きな理由は有配偶率の低下です。近年では有配偶出生率も低下で推移するようになりました。

● 要因の見える化



● 市町村で相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図に南丹地域を置くと、若年層(20-39歳)人口転入率(住宅環境(結婚・第1子まで))、男性正規雇用割合(雇用の安定性)、0-17歳人口一人当たり児童福祉費(自治体サポート)が平均より低く、一戸建て比率(住宅環境(第2子以降))、林野面積割合(外遊び環境)が平均値を上回っている様子がわかります。

(注) 括弧の中は評価分野

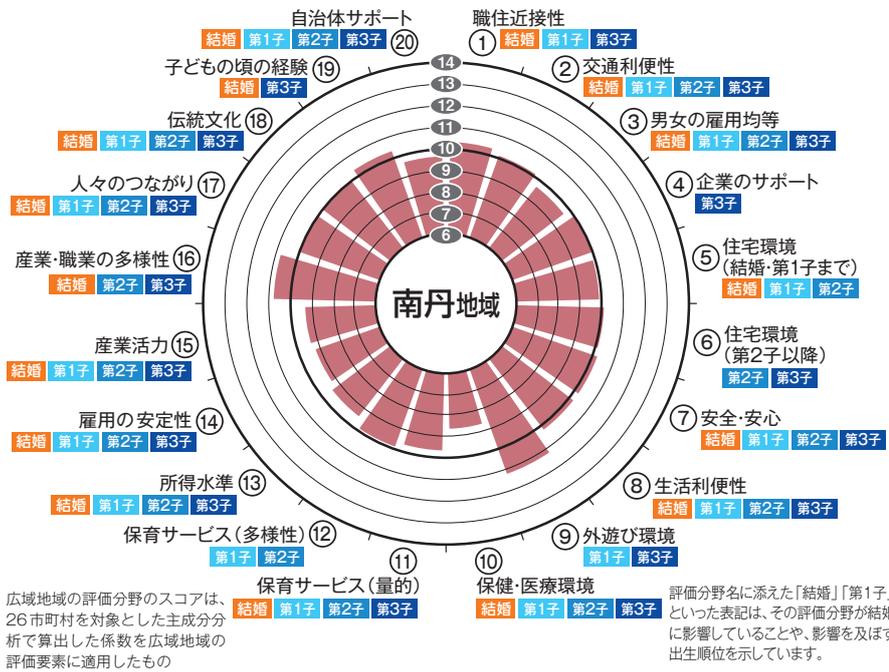
(注) 1. 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照 2. 縦軸が有配偶出生率のとき、出生がない市町村は点を表記していない

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート
(評価分野のスコア、市町村平均=10)

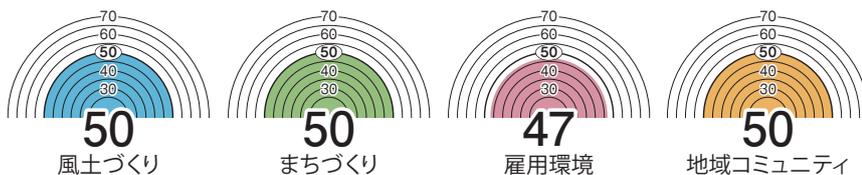
京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す



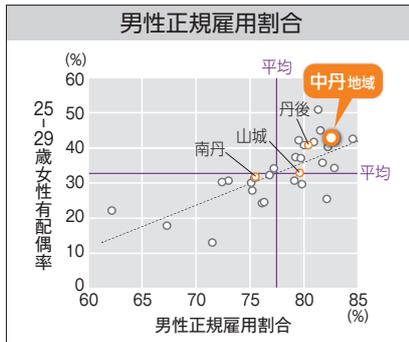
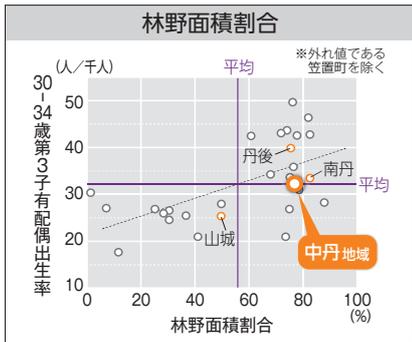
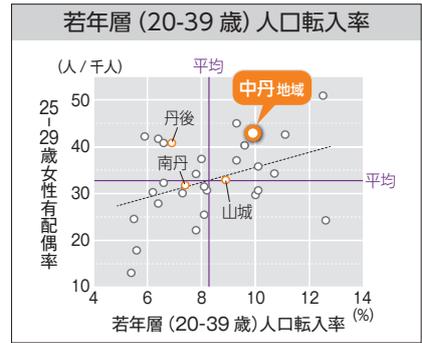
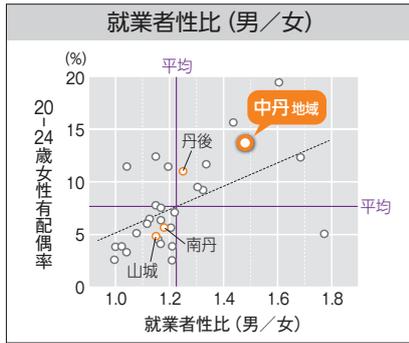
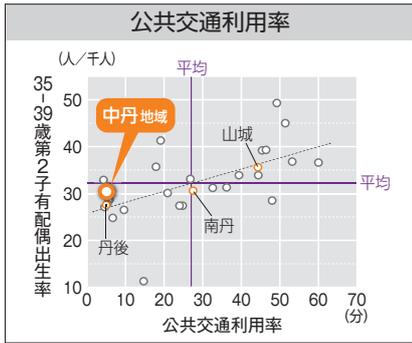
広域地域の評価分野のスコアは、26市町村を対象とした主成分分析で算出した係数を広域地域の評価要素に適用したもので、評価分野名に添えた「結婚」「第1子」といった表記は、その評価分野が結婚に影響していることや、影響を及ぼす出生順位を示しています。

子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



- ⑯産業・職業の多様性のスコアの高さなど、全体に人口が多い亀岡市の影響を強く受けていますが、⑨外遊び環境、⑲子どもの頃の経験等は、南丹地域で見ると地域の優位点として表れます。
- 一方で、南丹市や京丹波町でスコアが高かった地域コミュニティ関連の評価分野がほぼ市町村平均となるほか、全体として平均かそれを下回る評価分野が多くなっています。南丹地域の合計特殊出生率は京都府全体とほぼ同じで低い値ですが、こうしたことが背景になっていると考えられます。

● 要因の見える化



● 市町村で相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図に中丹地域を置くと、公共交通利用率（交通利便性）が市町村平均を下回り、就業者性比（男/女）（男女の雇用均等）、若年層人口転入率（住宅環境（結婚・第1子まで））、林野面積割合（外遊び環境）、男性正規雇用割合（雇用の安定性）が、市町村平均を上回っている様子がわかります。

(注) 括弧の中は評価分野

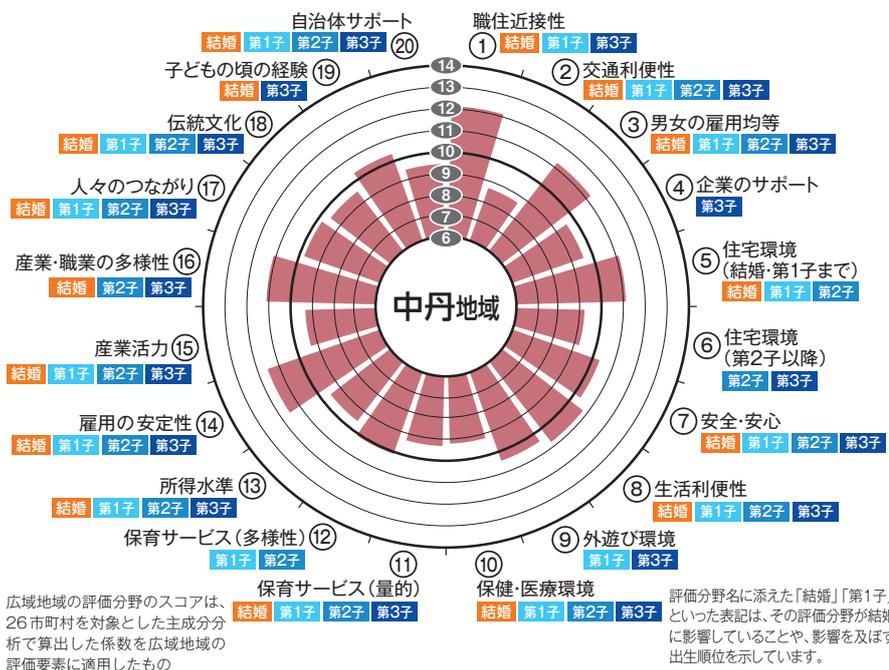
(注) 1. 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照 2. 縦軸が有配偶出生率のとき、出生がない市町村は点を表記していない

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)

京都・子育てにわたる環境づくり目標 Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

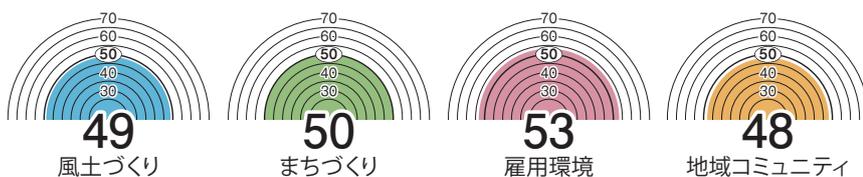
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要な人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す



広域地域の評価分野のスコアは、26市町村を対象とした主成分分析で算出した係数を広域地域の評価要素に適用したもので

評価分野名に添えた「結婚」「第1子」といった表記は、その評価分野が結婚に影響していることや、影響を及ぼす出生順位を示しています。

子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



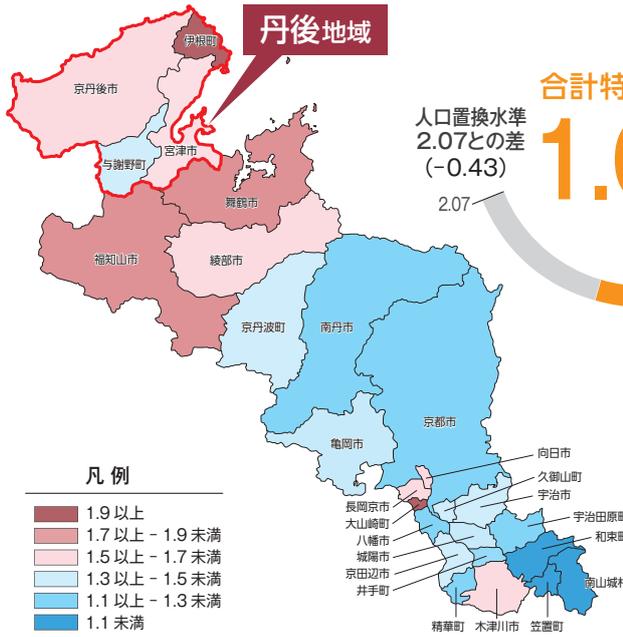
- この地域の3市に共通した①職住近接性、③男女の雇用均等、⑭雇用の安定性、⑮産業・職業の多様性のスコアの高さが、中丹地域の子育て環境の特徴にも表れています。また、⑤住宅環境（結婚・第1子まで）も広域地域でみてスコアが高い評価分野になっています。
- 半面、⑩保健・医療環境をはじめ、⑥住宅環境（第2子以降）や⑪保育サービス（量的）のスコアが低く、⑰以降の地域コミュニティ関連の中にも市町村平均を下回るものがみられるなど、広域地域で共通して取り組むべき課題があることがわかります。

丹後地域

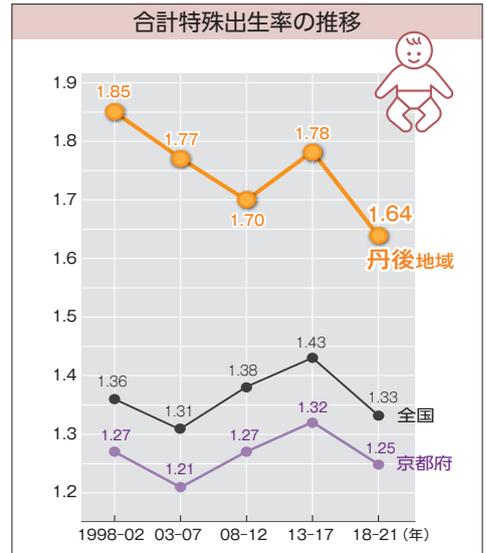
宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町

● 出生率の概要

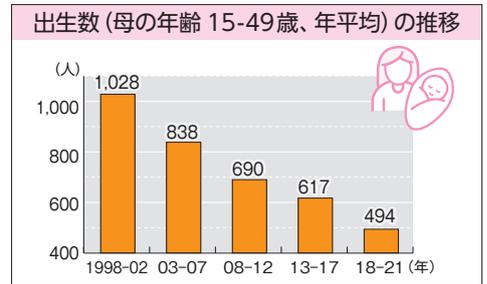
合計特殊出生率
(2018-2021年)



合計特殊出生率の推移



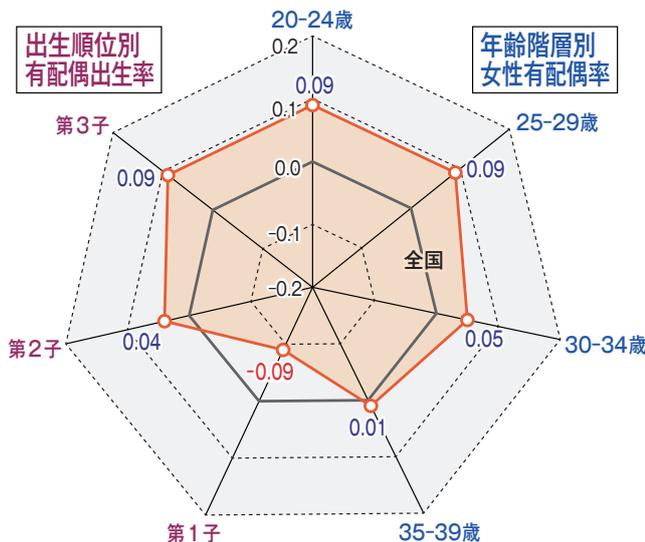
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



- 2018-21年の丹後地域の合計特殊出生率は1.64と算出され、全国値を大きく上回ります。人口置換水準との差は-0.43ポイントです。
- ただし、出生率は2008-12年から2013-17年の期間を除いて低下傾向で推移し、2018-21年の低下が全国を上回るなど、はっきりとした低下傾向がみられます。

● 実態の見える化

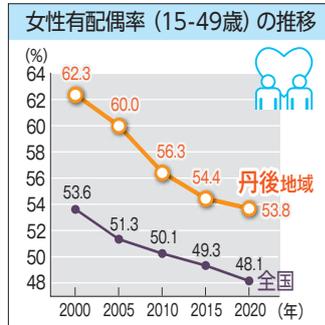
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



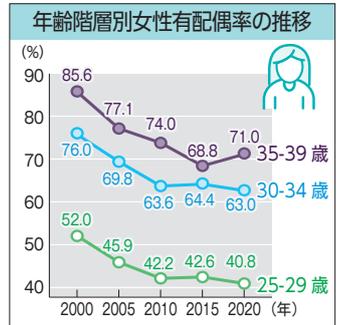
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、人口が多い京丹後市や与謝野町と同じ傾向が表れ、20歳代から30歳代前半にかけて女性有配偶率が高いことが特徴です。こうした有配偶率の傾向を受けて、有配偶出生率は第3子が全国値を大きく上回ります。一方で、第1子のマイナスが大きいことも特徴であり、今後の出生率のさらなる低下が懸念されます。
- 出生率が長期にわたり低下傾向にあるのは有配偶率の低下が主な原因です。ただし、2018-21年の出生率低下は、第1子有配偶出生率が響いています。

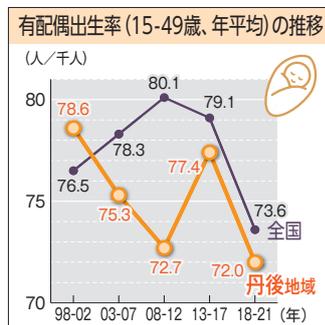
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

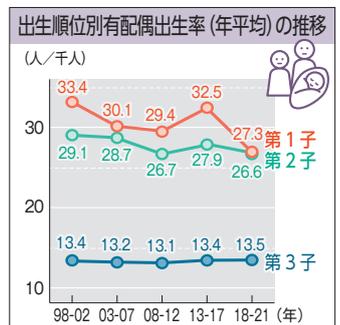


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

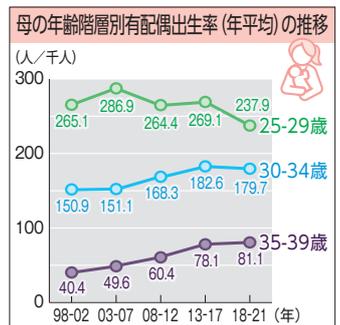


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

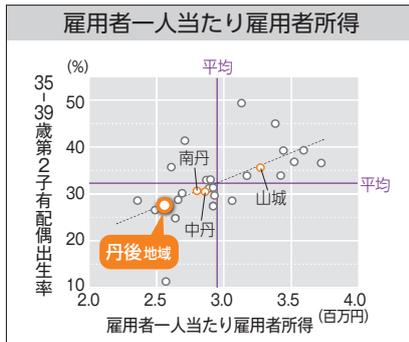
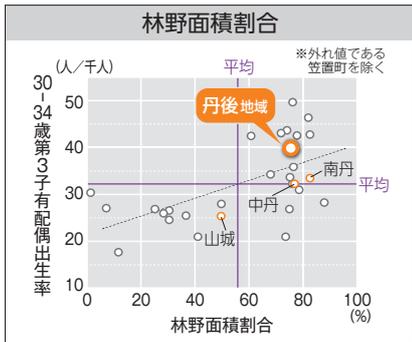
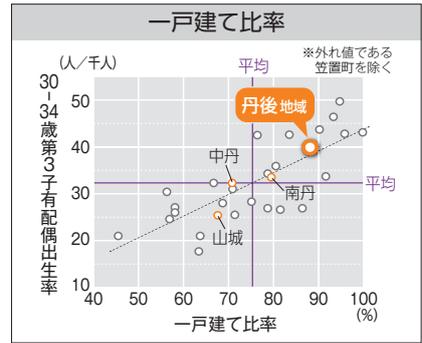
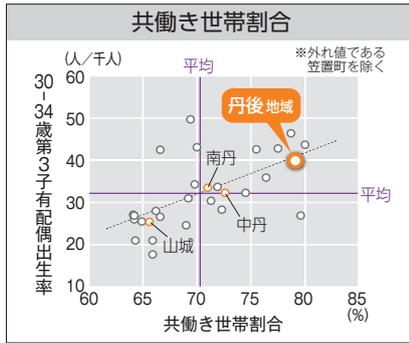
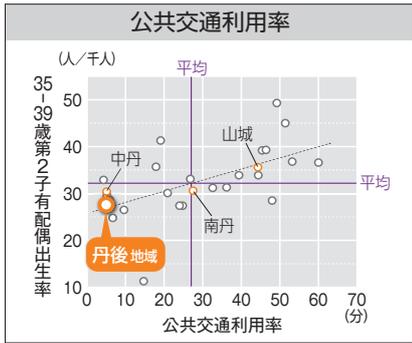
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



● 市町村で相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図に丹後地域を置くと、共働き世帯割合（男女の雇用均等）、一戸建て比率（住宅環境（第2子以降））、林野面積割合（外遊び環境）が市町村平均を上回り、公共交通利用率（交通利便性）、課税対象所得額（所得水準）が平均を大きく下回っている様子がわかります。

(注) 括弧の中は評価分野

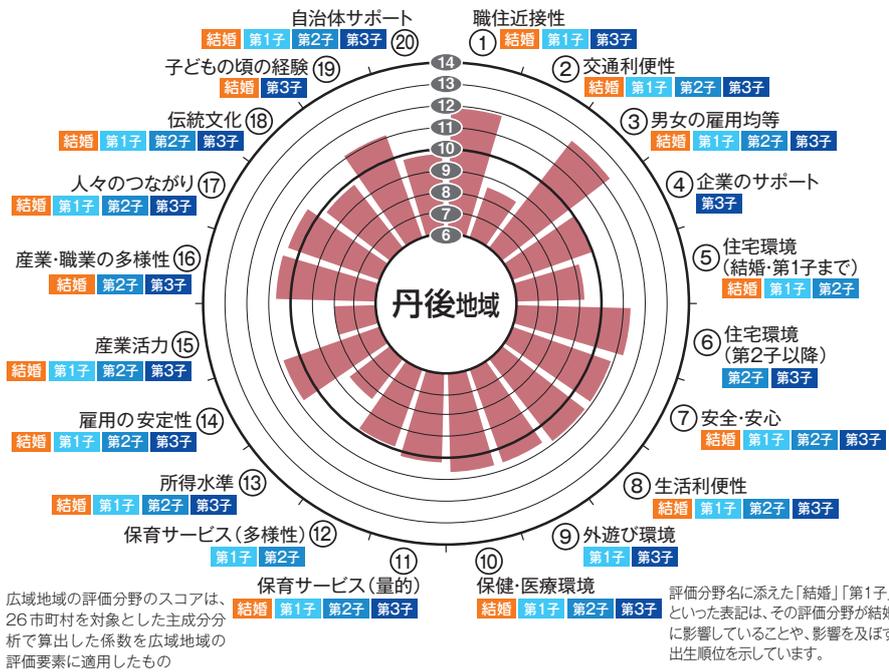
(注) 1. 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照 2. 縦軸が有配偶出生率のとき、出生がない市町村は点を表記していない

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)

京都・子育てにわたる環境づくり目標 Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

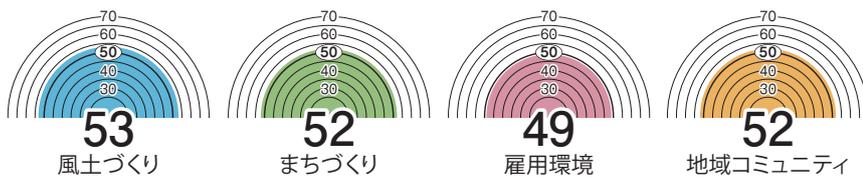
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切にすまに
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す



広域地域の評価分野のスコアは、26市町村を対象とした主成分分析で算出した係数を広域地域の評価要素に適用したもので

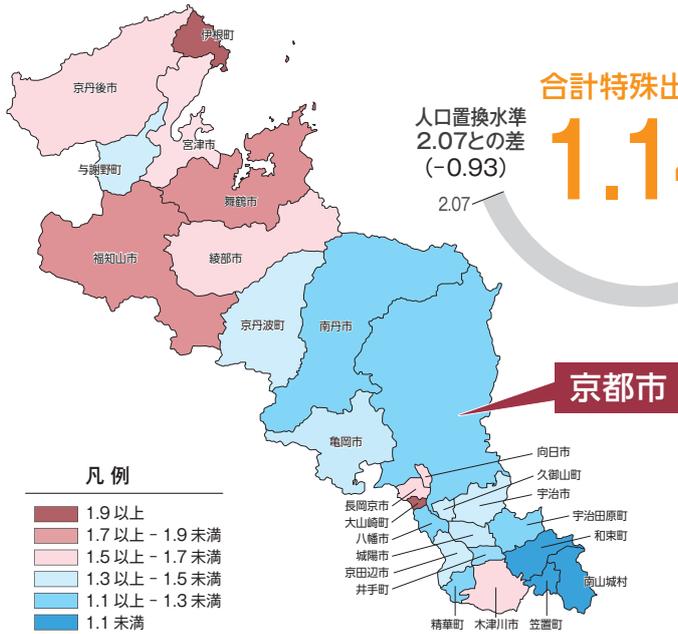
評価分野名に添えた「結婚」「第1子」といった表記は、その評価分野が結婚に影響していることや、影響を及ぼす出生順位を示しています。

子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)

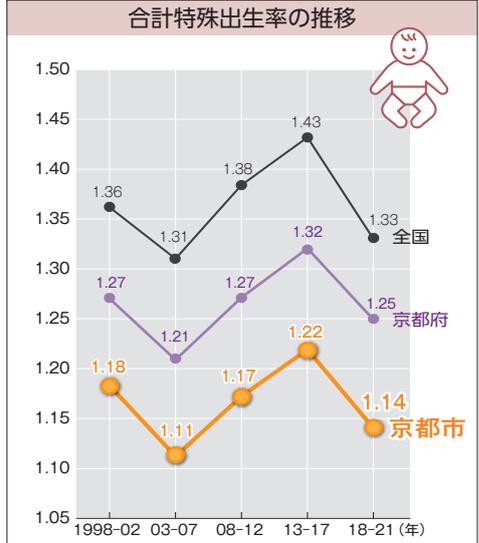


- 丹後地域と同じように出生率が高い中丹地域と比べると、①職住近接性、③男女の雇用均等、⑭雇用の安定性、⑯産業・職業の多様性のスコアの高さは共通しています。一方で、⑤住宅環境（結婚・第1子まで）が市町村平均を下回り、⑬所得水準と⑮産業活力がかなり低いスコアになっているという違いがあります。
- 半面、⑥住宅環境（第2子以降）、⑨外遊び環境、⑪保育サービス（量的）、⑰人々のつながりと⑲子どもの頃の経験等、有配偶出生率に影響を及ぼす評価分野が高いという地域の特徴もみられます。

合計特殊出生率
(2018-2021年)



合計特殊出生率の推移



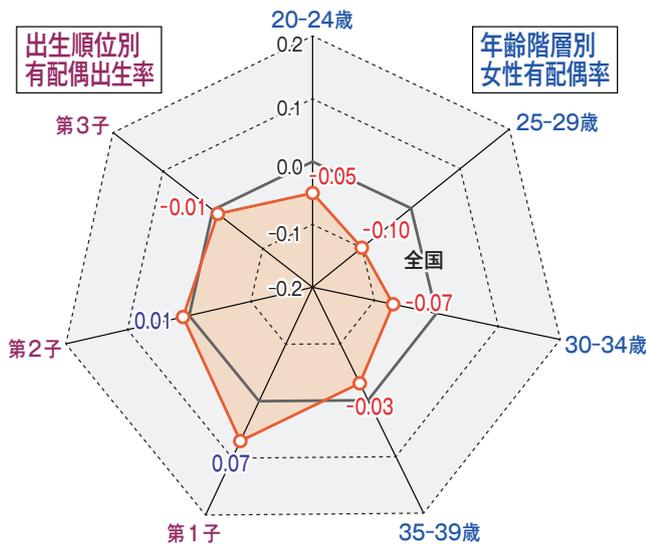
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 2018-21年の京都市の合計特殊出生率は1.14と算出され、全国とは-0.19ポイントの差が生じています。京都府と同様、全国値より低い水準で、全国と同じ増減で出生率が推移していることが京都市の特徴です。出生率の変化に対して、経済状況の変化、独自の少子化対策等、地域固有の要因が大きくは作用していないと推察されます。

● 実態の見える化

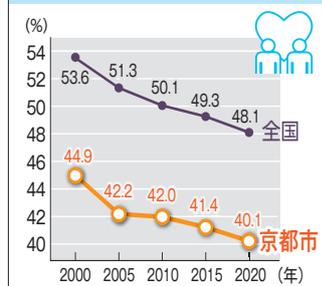
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



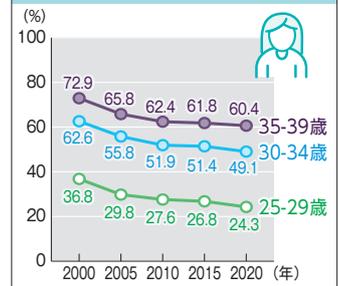
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 20歳代だけでなく30歳代前半の女性有配偶率が低く、全国よりも晩婚化が進んだ地域になっています。有配偶率の推移をみると、25-29歳を中心に低下傾向が続いています。
- 晩婚化が進むと第2子・第3子の有配偶出生率が低くなる傾向がみられますが、京都市は全国水準に近い値です。このため、有配偶率が上昇したときは出生率上昇の効果が大い期待されます。

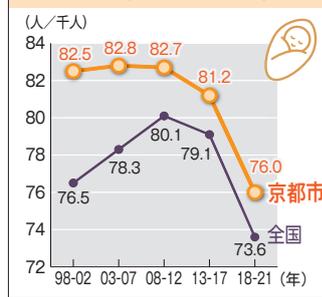
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

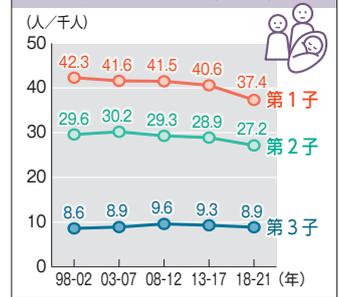


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

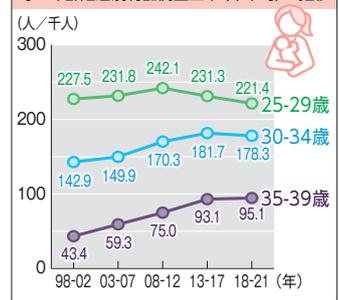


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

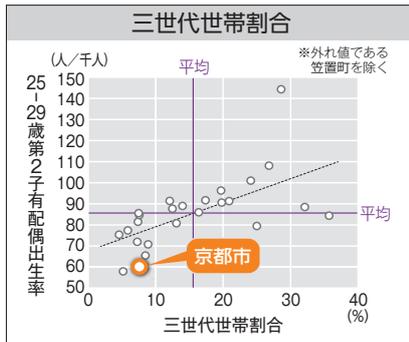
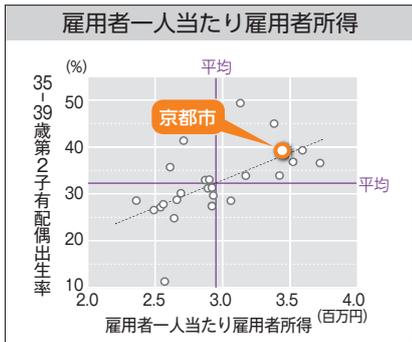
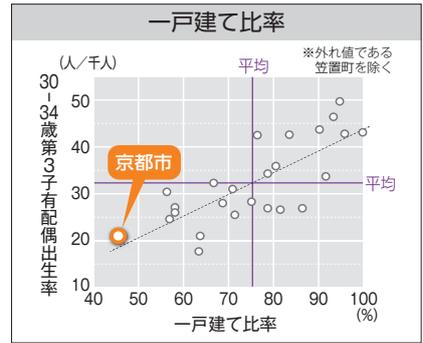
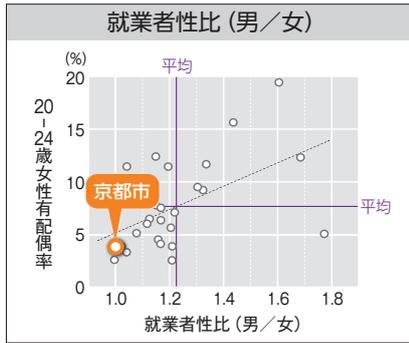
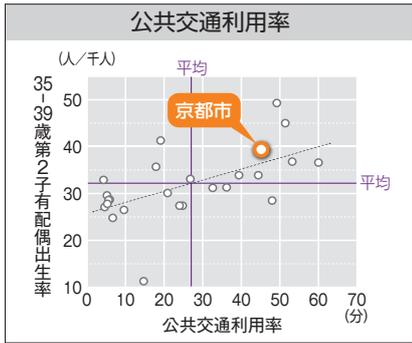
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、公共交通利用率（交通利便性）、雇業者一人当たり雇業者所得（所得水準）で、京都市が市町村平均を上回っています。一方、就業者性比（男/女）（男女の雇用均等）、一戸建て比率（住宅環境（第2子以降））、三世代世帯割合（子どもの頃の経験）では平均を下回っています。
 (注) 括弧の中は評価分野

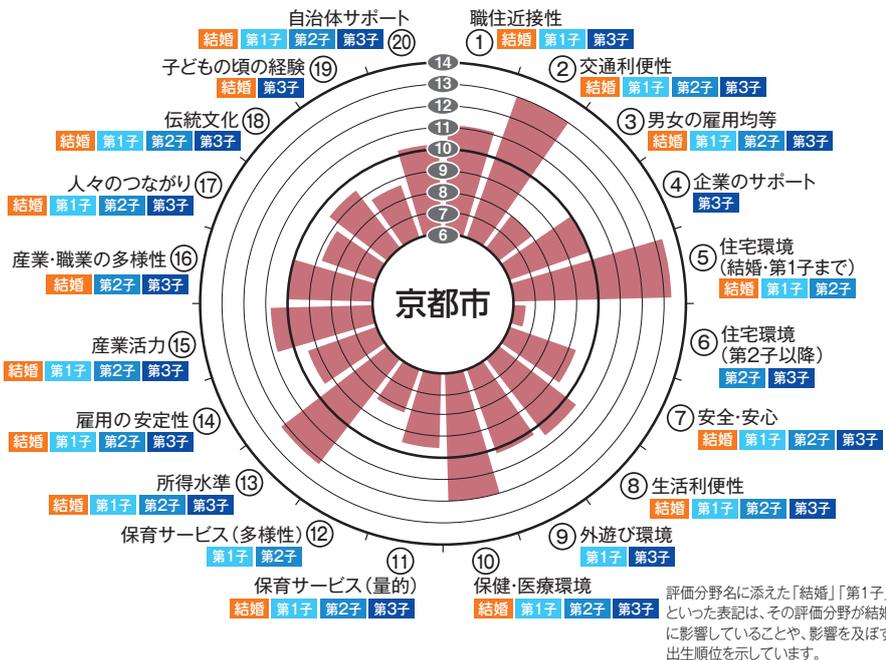
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

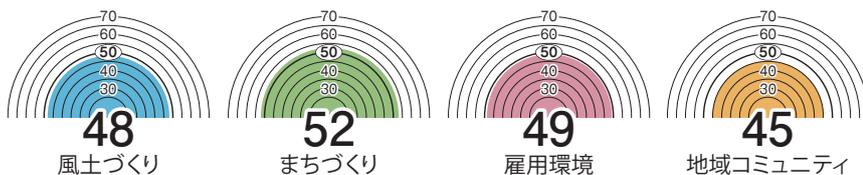
結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)

京都・子育てにわたる環境づくり目標 Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)

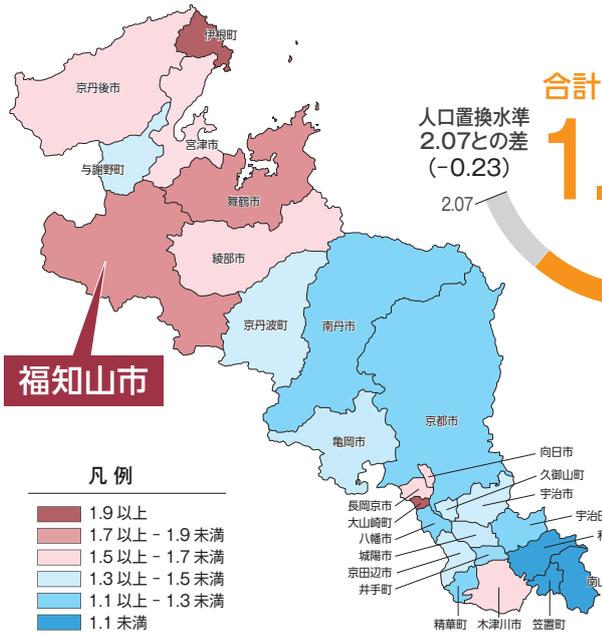


- 有配偶率への影響が大きい②交通利便性と⑬所得水準のスコアが高い一方で、③男女の雇用均等のスコアが低く、⑭雇用の安定性は平均を下回っています。
- 有配偶出生率に強く影響する住宅環境において⑤と⑥の差が大きくなっています。このほか、⑪と⑫の保育サービス関連、⑰、⑱、⑲といった地域コミュニティや家族のつながりに関連する評価分野のスコアが市町村平均よりも低くなっています。

福知山市

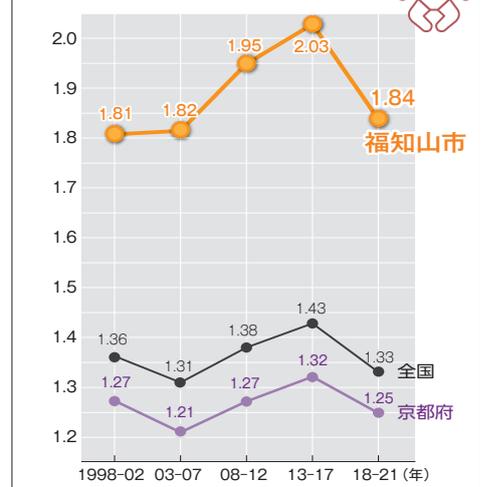
● 出生率の概要

合計特殊出生率
(2018-2021年)

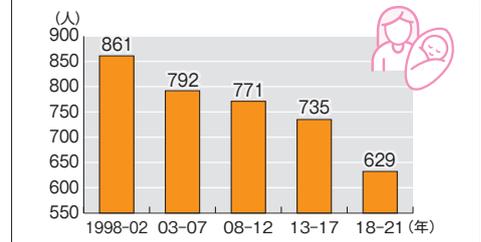


- 2018-21年の福知山市の合計特殊出生率は1.84と算出されます。全国値を0.51ポイント上回り、人口置換水準との差も-0.23ポイントしかありません。中丹・丹後の他市町村とともに、全国的にも出生率が高い地域を形成し、その中でもとりわけ高い出生率になっています。
- ただし近年は、全国と同様、出生率が低下する傾向がみられます。

合計特殊出生率の推移

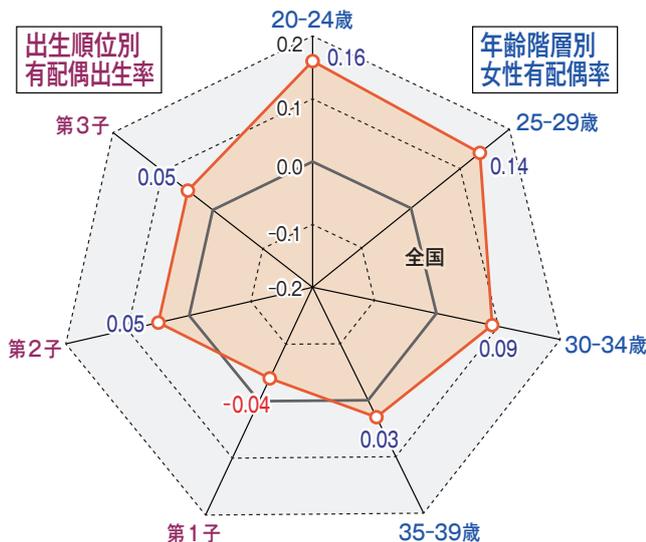


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

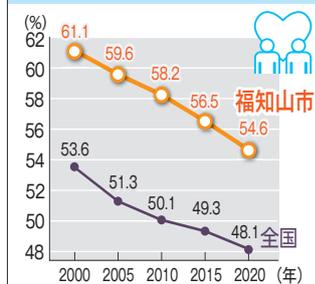
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



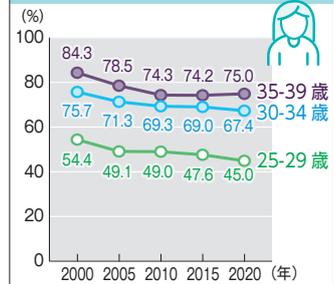
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- すべての年齢階層の女性有配偶率が全国水準を上回り、とりわけ20歳代が高いことが特徴です。
- 有配偶率の状況等を反映して第2子・第3子の有配偶出生率が全国値を大きく上回っています。一方で、第1子は全国をやや下回り、今後の出生率低下に対する懸念材料になっています。

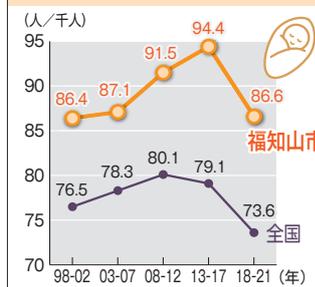
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

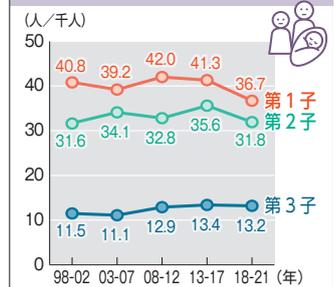


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

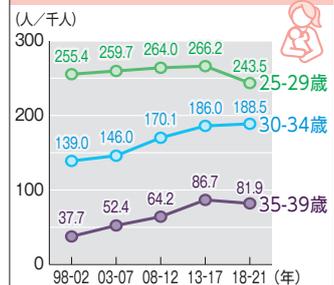


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

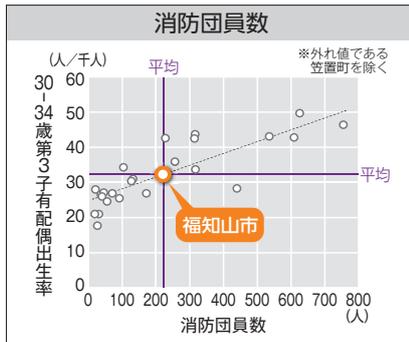
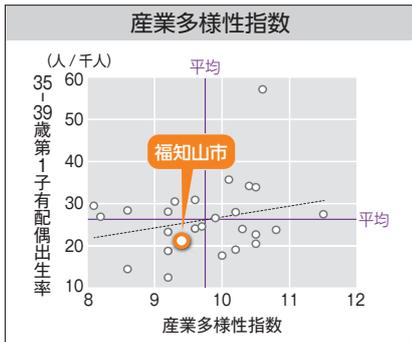
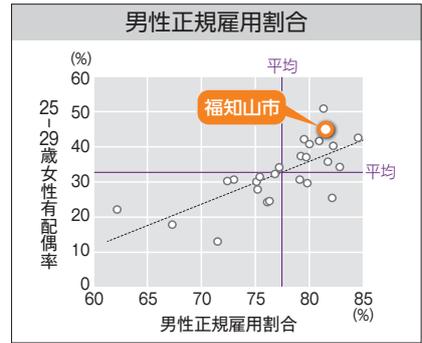
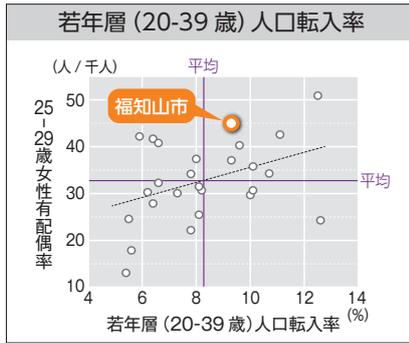
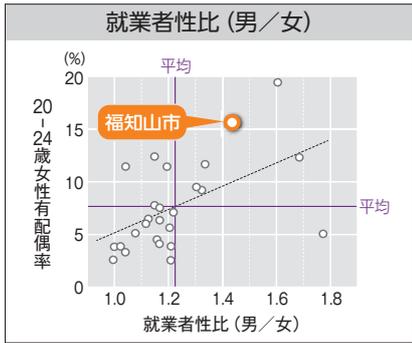
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



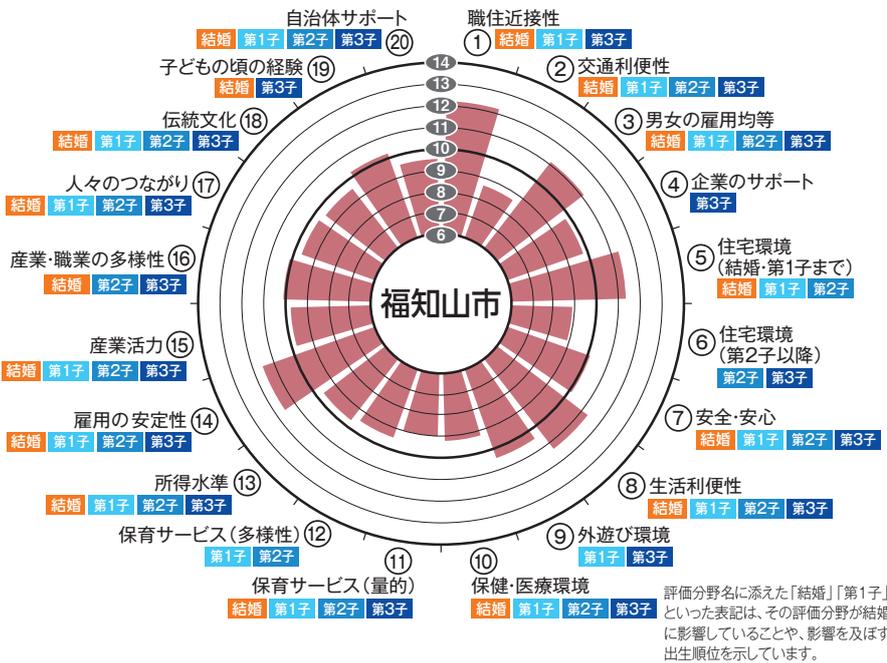
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、就業者性比(男/女)(男女の雇用均等)、若年層(20-39歳)人口転入率(住宅環境(結婚・第1子まで)、男性正規雇用割合(雇用の安定性)で福知山市が市町村平均を上回り、産業多様性指数(産業・職業の多様性)で下回っている様子がわかります。

(注) 括弧の中は評価分野

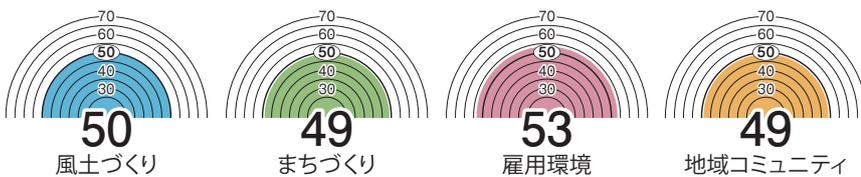
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート
(評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

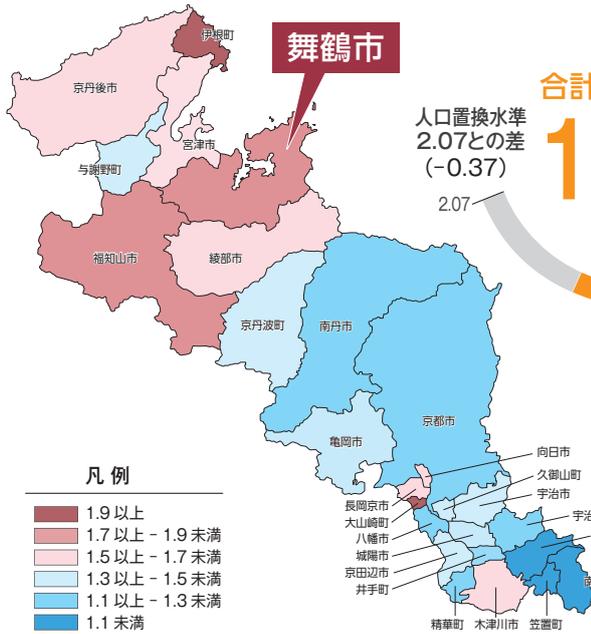
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切にす
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ⑬所得水準は平均をやや下回るものの、①職住近接性と⑭雇用の安定性のスコアが高いことが有配偶率の高さに強く影響を及ぼしていると考えられます。また、③男女の雇用均等と⑤住宅環境(結婚・第1子まで)も平均を上回ります。
- 有配偶出生率に影響する⑧生活利便性や⑨外遊び環境は高スコアですが、⑪と⑫の保育サービス関連、⑰、⑱の地域コミュニティ関連は平均値以下であり、出生率は高いながらも子育て環境に対する課題設定が可能になっています。

舞鶴市

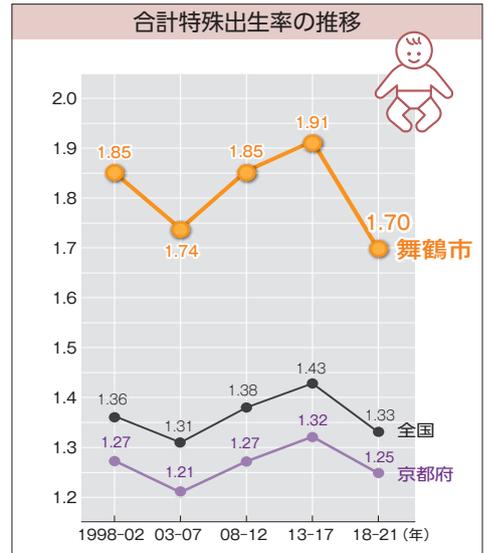
● 出生率の概要

合計特殊出生率
(2018-2021年)

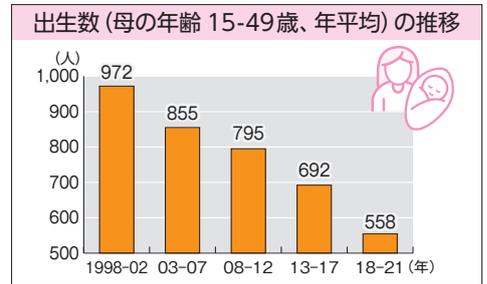


- 2018-21年の舞鶴市の合計特殊出生率は1.70と算出されます。全国値を0.37ポイント上回り、人口置換水準との差も-0.37ポイントにとどまります。中丹・丹後の他市町村とともに、全国的にも出生率が高い地域を形成し、福知山市と並んで高い出生率になっています。
- 近年は、全国と同様、出生率が低下する傾向がみられます。

合計特殊出生率の推移

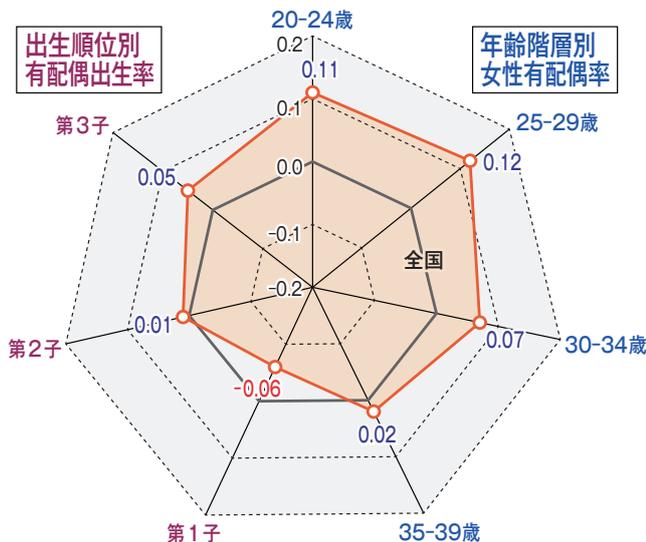


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

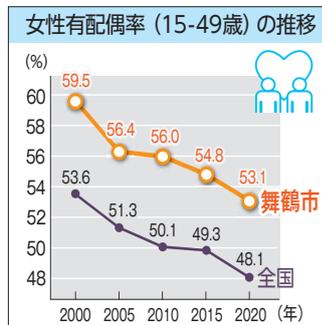
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



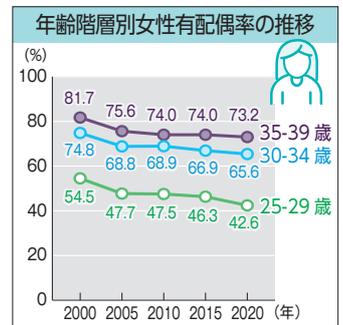
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- すべての年齢階層の女性有配偶率が全国水準を上回り、とりわけ20歳代が高いことが特徴です。
- 有配偶率の状況等を反映して第2子・第3子の有配偶出生率が全国値を上回っています。一方で、第1子は全国を大きく下回るため、今後の出生率低下が懸念されます。

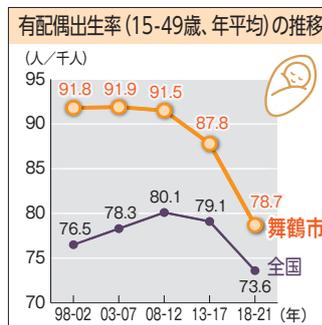
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

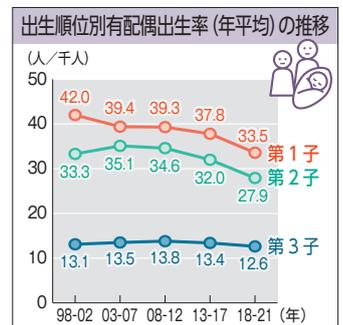


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

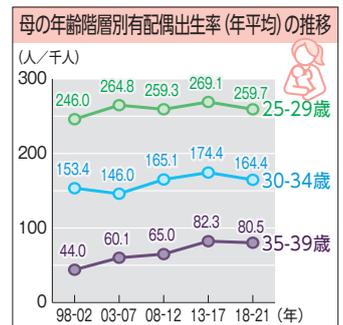


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

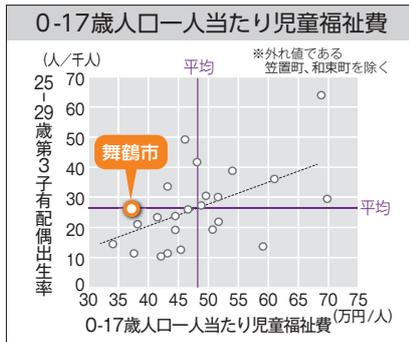
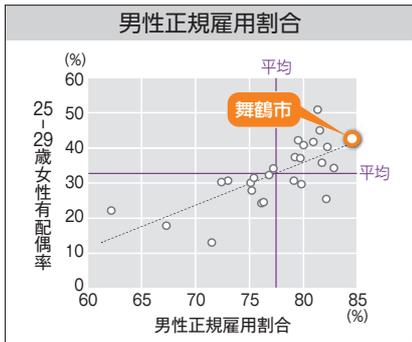
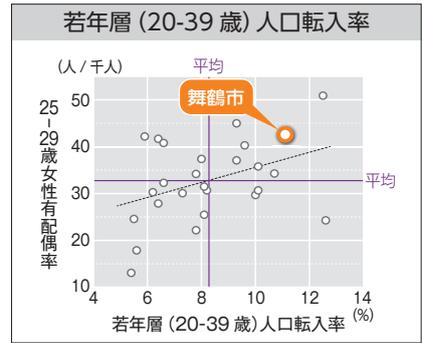
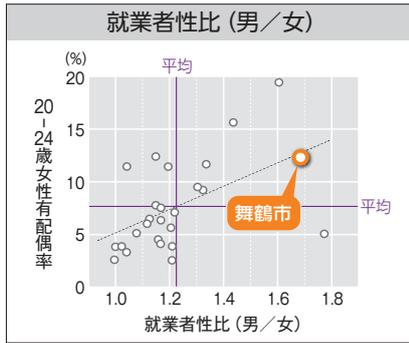
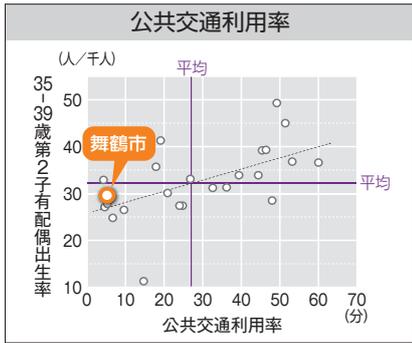
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



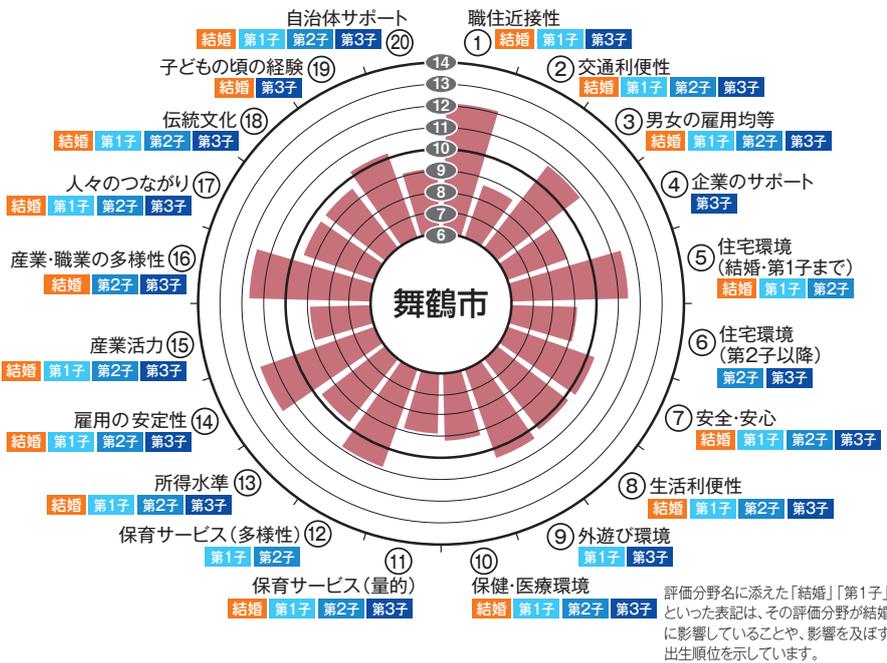
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、就業者性比(男/女)、若年層(20-39歳)人口転入率(住宅環境(結婚・第1子まで))、男性正規雇用割合(雇用の安定性)で、舞鶴市が平均を上回っている様子がわかります。一方、公共交通利用率(交通利便性)、0-17歳人口一人当たり児童福祉費(自治体サポート)で平均を下回っています。

(注) 括弧内は評価分野

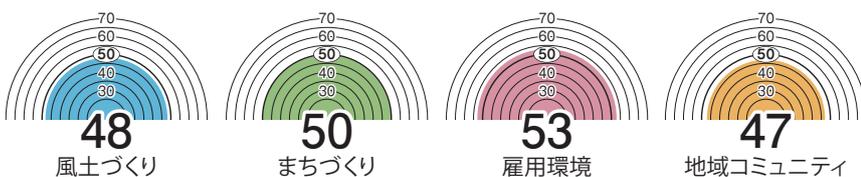
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標 Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

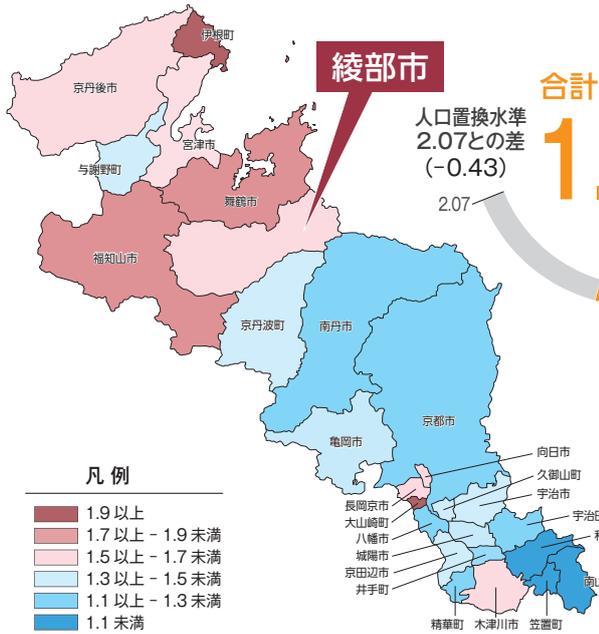
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ①職住近接性、③男女の雇用均等、⑭雇用の安定性、⑯産業・職業の多様性といった産業や働き方に関わるスコアが高いことが、福知山市と同様、舞鶴市の特徴になっています。いずれも結婚への影響力が強い評価分野です。また、⑤住宅環境(結婚・第1子まで)も平均を上回ります。
- 有配偶出生率に影響する⑦安全・安心と⑨外遊び環境は平均を上回りますが、⑪の保育サービス(量的)、⑰、⑱の地域コミュニティ関連は平均値以下です。また、府北部の課題である⑩保健・医療環境のスコアが低く、出生率は高いながらも子育て環境に対する課題設定が必要と考えられます。

綾部市

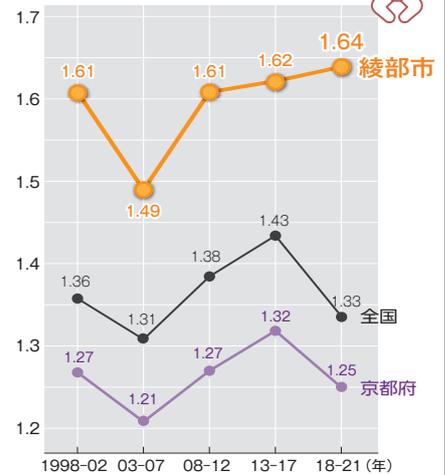
● 出生率の概要

合計特殊出生率
(2018-2021年)

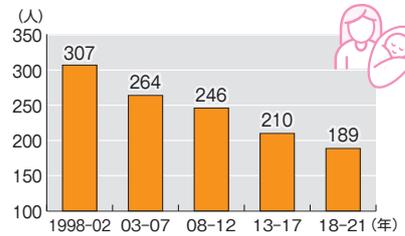


- 2018-21年の綾部市の合計特殊出生率は1.64と算出されます。全国値を0.31ポイント上回り、人口置換水準との差も-0.43ポイントにとどまります。中丹・丹後の他市町村とともに、全国的にも出生率が高い地域を形成しています。
- 2018-21年は、全国や、府内市町村の多くで出生率が低下する中で、綾部市の出生率は上昇となりました。

合計特殊出生率の推移

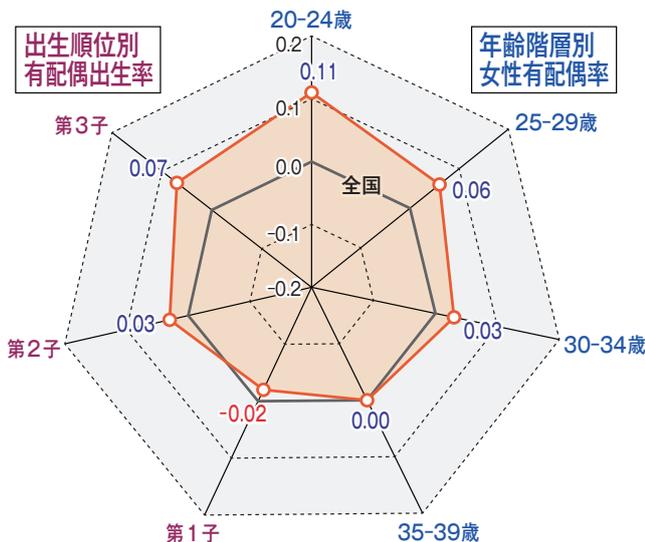


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

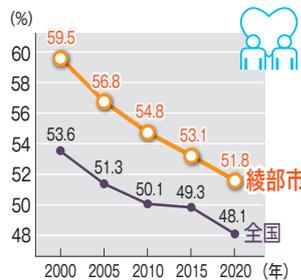
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



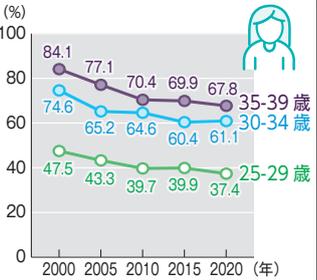
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 20歳代の女性有配偶率と第3子有配偶出生率が全国水準を上回っていることが出生率の高さにつながっていると考えられます。
- 綾部市は、長年にわたり有配偶率の低下率が全国よりも大きくなっています。近年の出生率の上昇は、主に有配偶出生率の上昇によるものと考えられます。

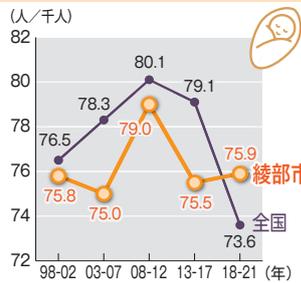
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

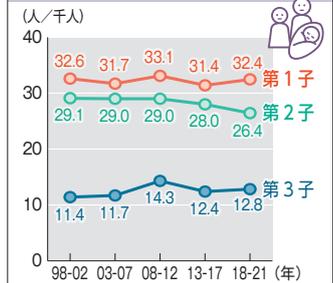


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

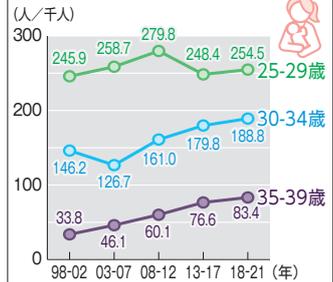


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

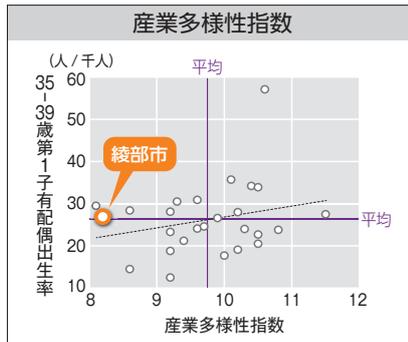
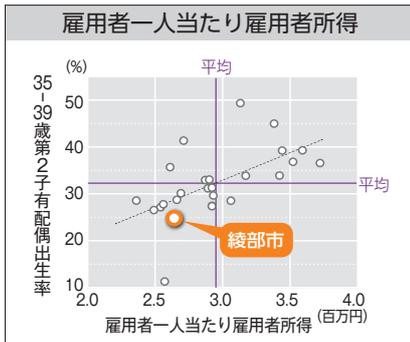
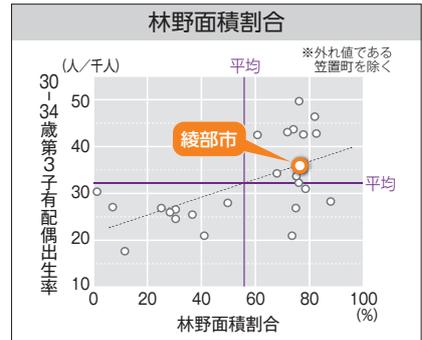
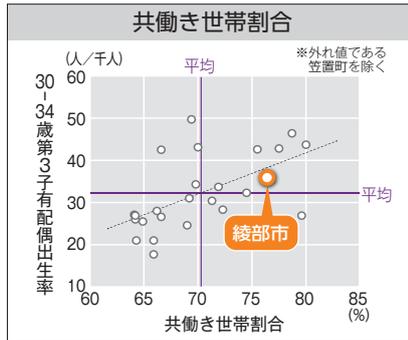
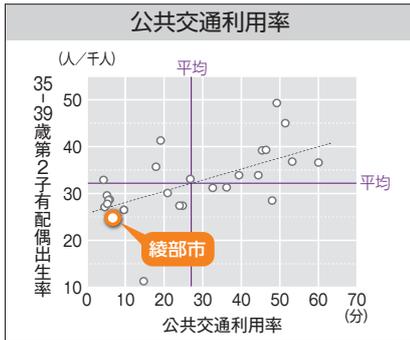
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、共働き世帯割合（男女の雇用均等）、林野面積割合（外遊び環境）で、綾部市が平均を上回っている様子がわかります。一方、公共交通利用率（交通利便性）、雇業者一人当たり雇業者所得（所得水準）、産業多様性指数（産業・職業の多様性）で平均を下回っています。

（注）括弧の中は評価分野

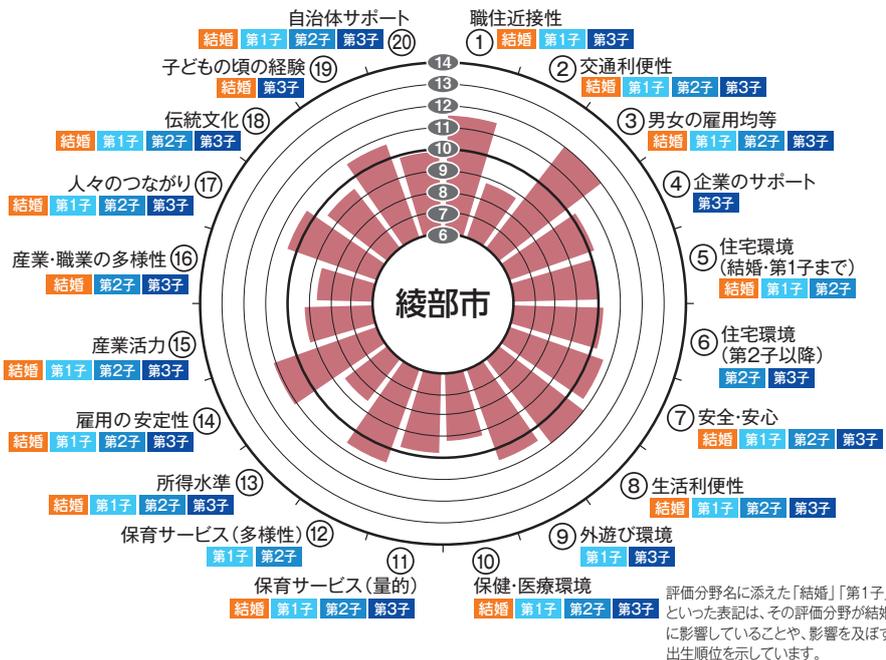
（注）図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

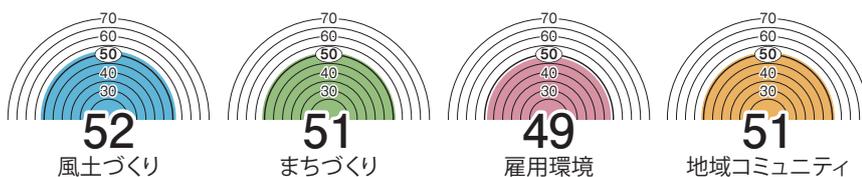
結婚・子育て環境バーチャート
(評価分野のスコア、市町村平均=10)

京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

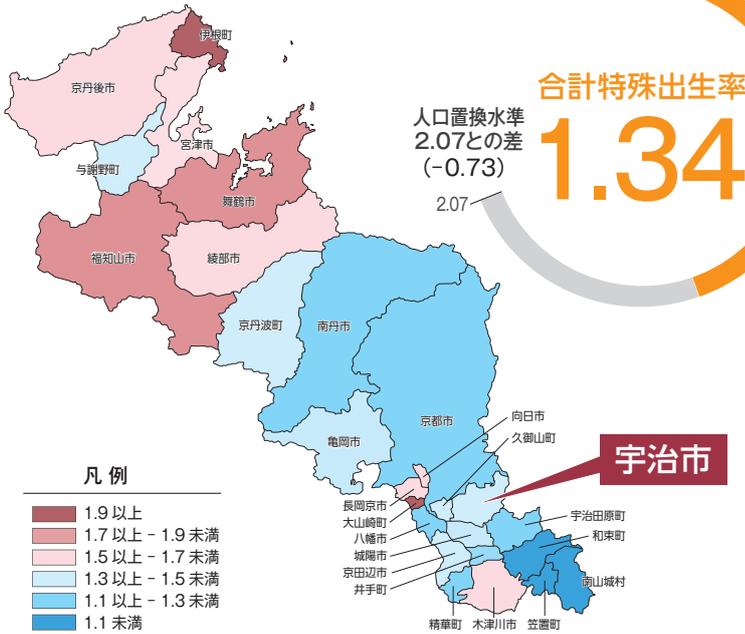


子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



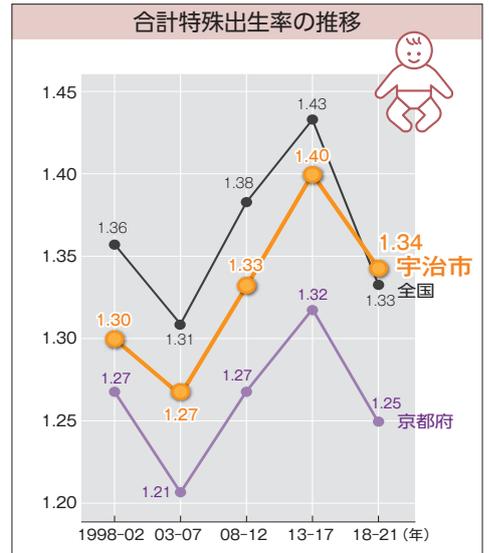
- ①職住近接性、③男女の雇用均等、⑭雇用の安定性といった産業や働き方に関わる評価分野のスコアが高く、出生率が高い中丹地域の特徴が表れています。いずれも結婚への影響力が強い評価分野です。一方で、同じ産業関連の中での⑬所得水準、⑯産業・職業の多様性のスコアが低く、出生率に対してマイナスに響いている可能性があります。
- ⑦安全・安心、⑨外遊び環境、⑩保育サービス（多様性）、⑰人々のつながり、⑲子どもの頃の経験といった主に有配偶出生率に影響する評価分野の中にも平均を上回るものが多くあります。その中で、府北部の課題である⑩保健・医療環境のスコアが低くなっています。

合計特殊出生率
(2018-2021年)

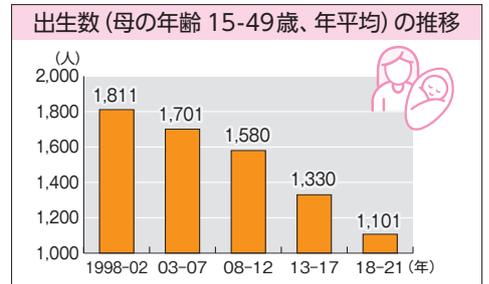


- 2018-21年の宇治市の合計特殊出生率は1.34と算出されます。出生率は全国をやや下回る水準で推移してきましたが、2018-21年には全国をわずかに上回りました。京都府の出生率よりも引き続き高くなっています。
- 2013-17年と比較すると、2018-21年は全国や京都府に比べ、合計特殊出生率の低下率がやや小幅となっています。

合計特殊出生率の推移

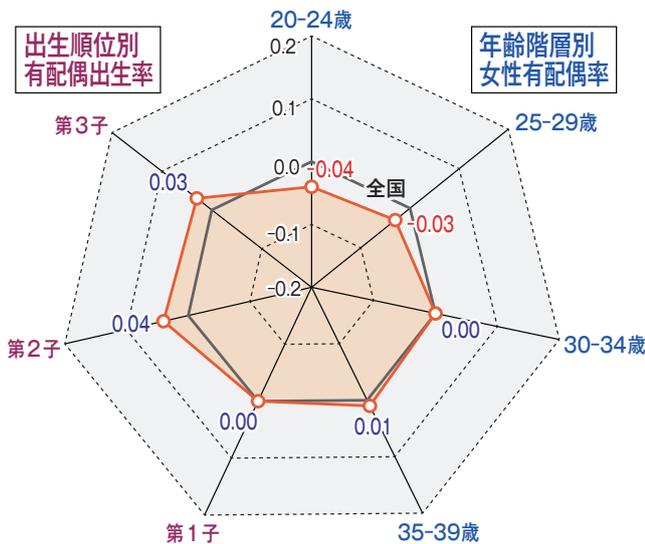


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

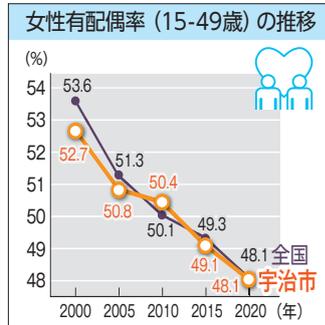
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



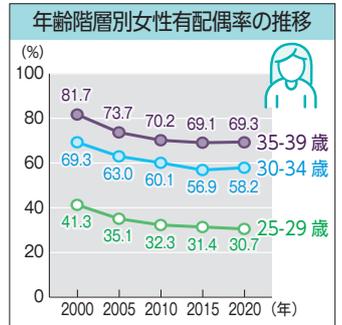
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20歳代の女性有配偶率の低さに比べ、第1子の有配偶出生率が全国値と同程度であり、かつ、第2子・第3子の有配偶出生率が全国を上回っていることが特徴です。
- 第2子・第3子の有配偶出生率が全国を上回るのは、2013-17年まで25-29歳や30-34歳の有配偶出生率が上昇傾向にあったことが影響していると考えられます。

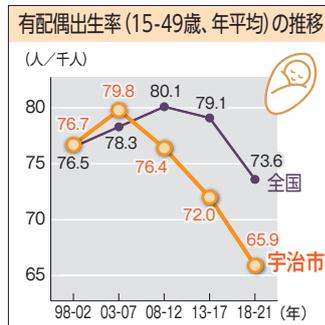
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

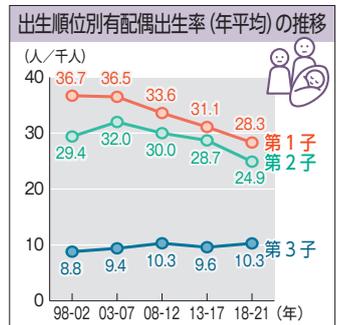


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

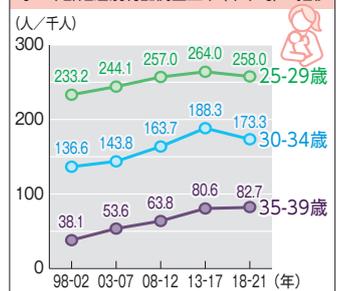


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

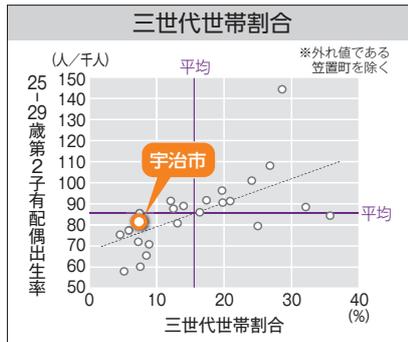
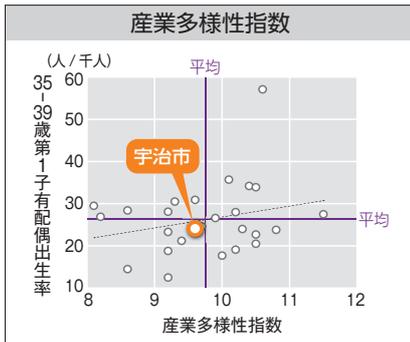
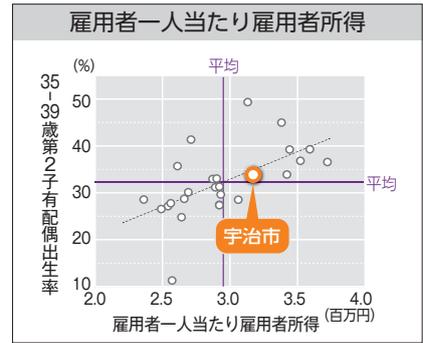
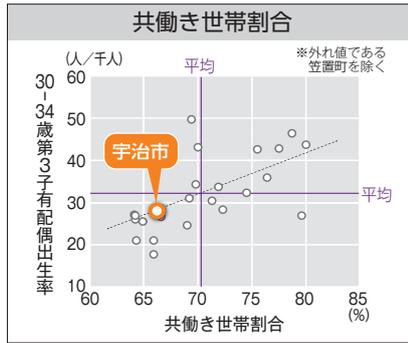
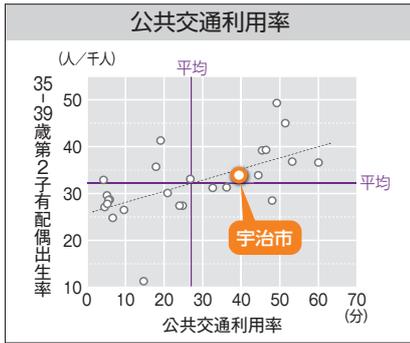
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



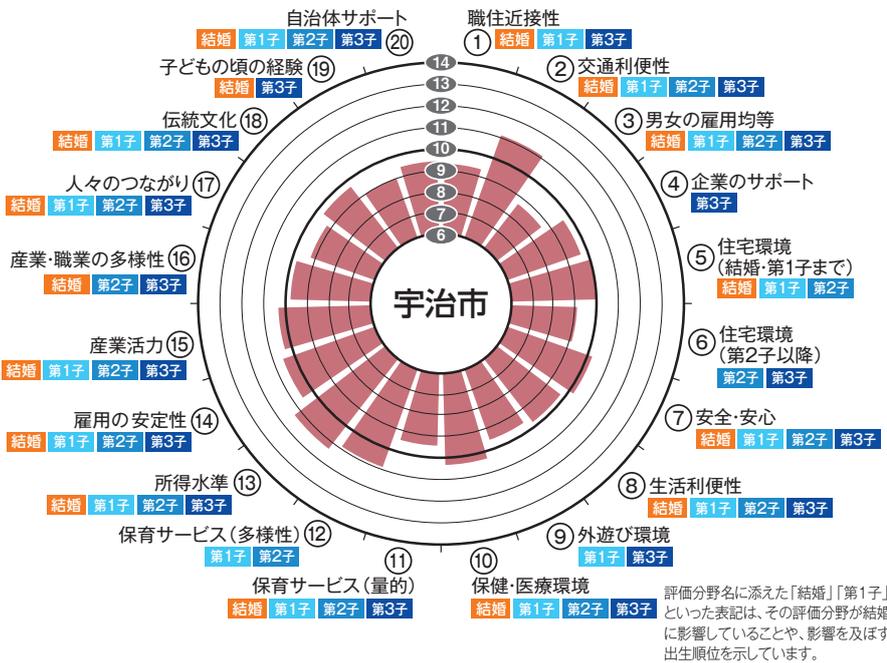
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、公共交通利用率（交通利便性）、雇業者一人当たり雇業者所得（所得水準）が平均を上回っています。一方、共働き世帯割合（男女の雇用均等）、産業多様性指数（産業・職業の多様性）、三世代世帯割合（子どもの頃の経験）が平均を下回っています。

(注) 括弧の中は評価分野

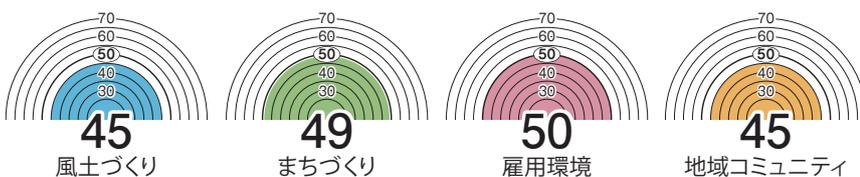
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標 (Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family)

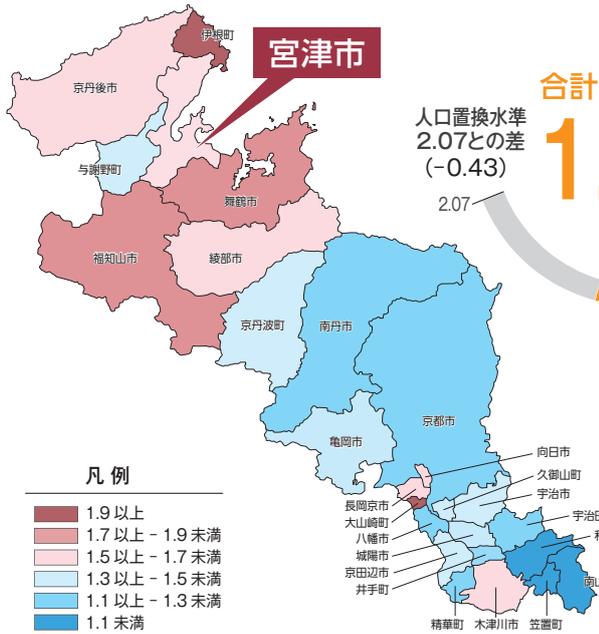
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切にすまに
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ⑬所得水準をはじめ、⑭雇用の安定性、⑮産業活力といった産業や働き方に関わる評価分野と、②交通利便性が高いことが宇治市の特徴であり、これらの評価分野は有配偶率と有配偶出生率の両方にプラスの影響を及ぼしていると考えられます。
- 一方で、①職住近接性のほか、③男女の雇用均等、⑥住宅環境（第2子以降）、⑪保育サービス（量的）、⑰人々のつながり、⑱子どもの頃の経験等のスコアが低く、特に①と③は有配偶率の低さに響いていると考えられます。

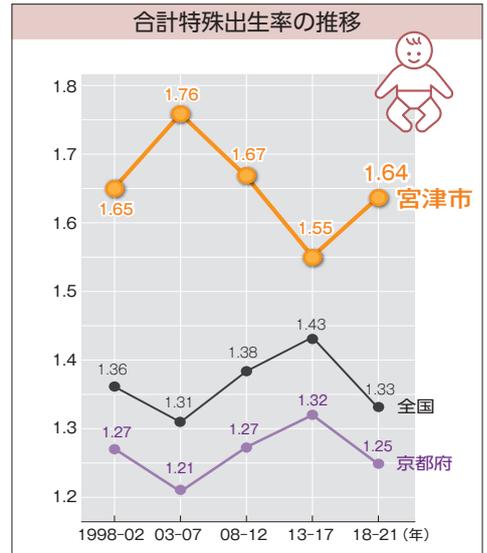
宮津市

● 出生率の概要

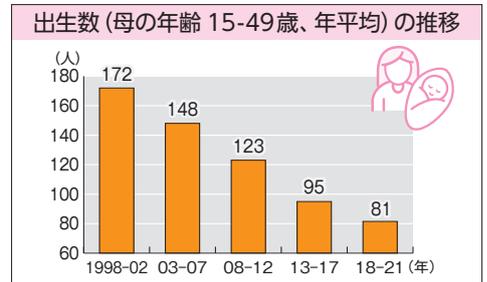
合計特殊出生率
(2018-2021年)



合計特殊出生率の推移



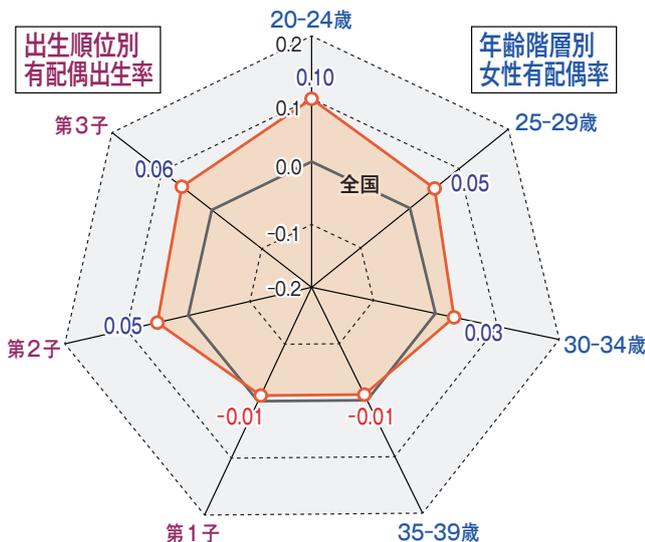
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



- 2018-21年の宮津市の合計特殊出生率は1.64と算出され、全国値を0.31ポイント上回りました。
- 宮津市の合計特殊出生率は2003-07の1.76から2013-17年の1.55まで急速に低下しましたが、2018-21年は上昇に転じています。

● 実態の見える化

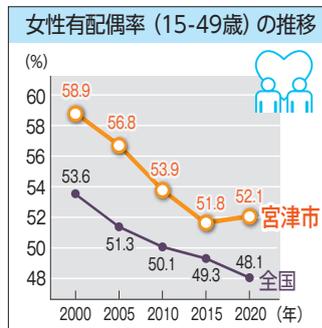
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



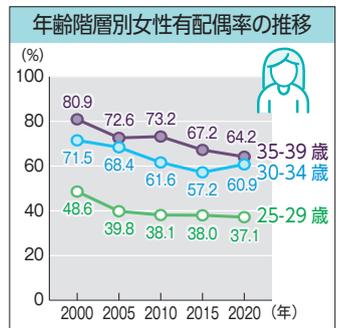
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20歳代の女性有配偶率が高いため、全国ほどには晩婚化は進んでいません。有配偶出生率は、第2子と第3子が全国値を上回りますが、第1子が低く、出生率低下が懸念されます。
- 2018-21年の合計特殊出生率の上昇は、主に2018-21年の有配偶率の上昇が影響したとみられます。

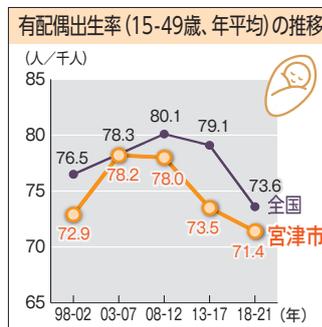
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

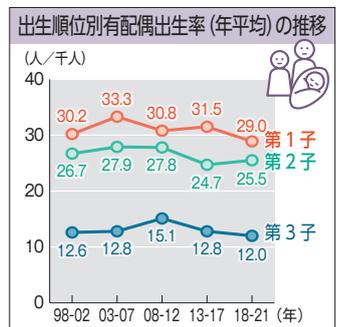


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

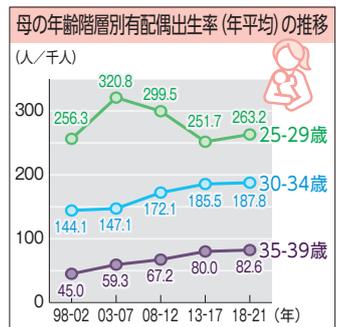


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

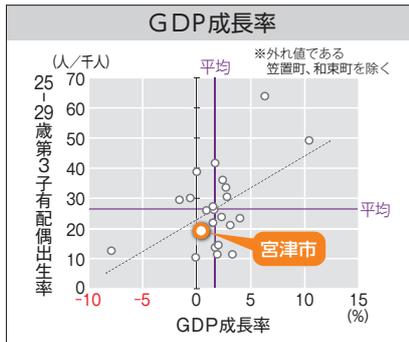
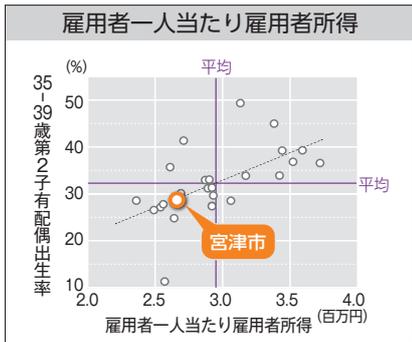
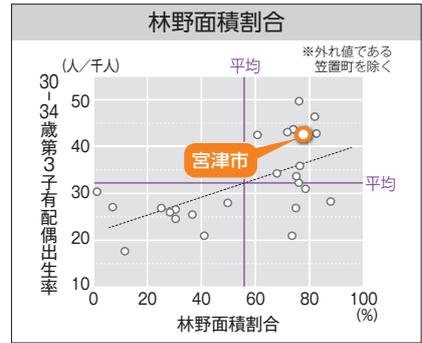
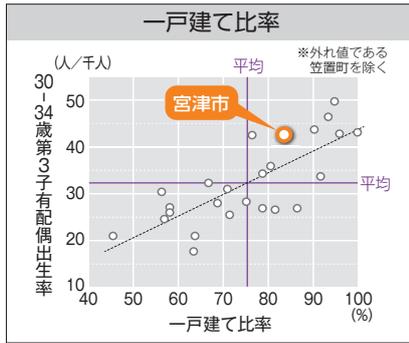
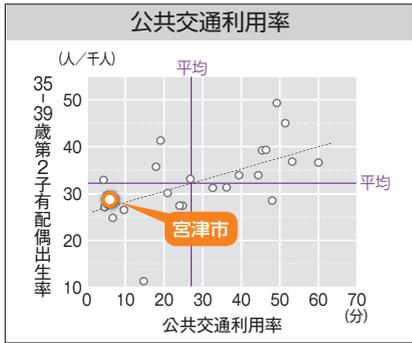
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



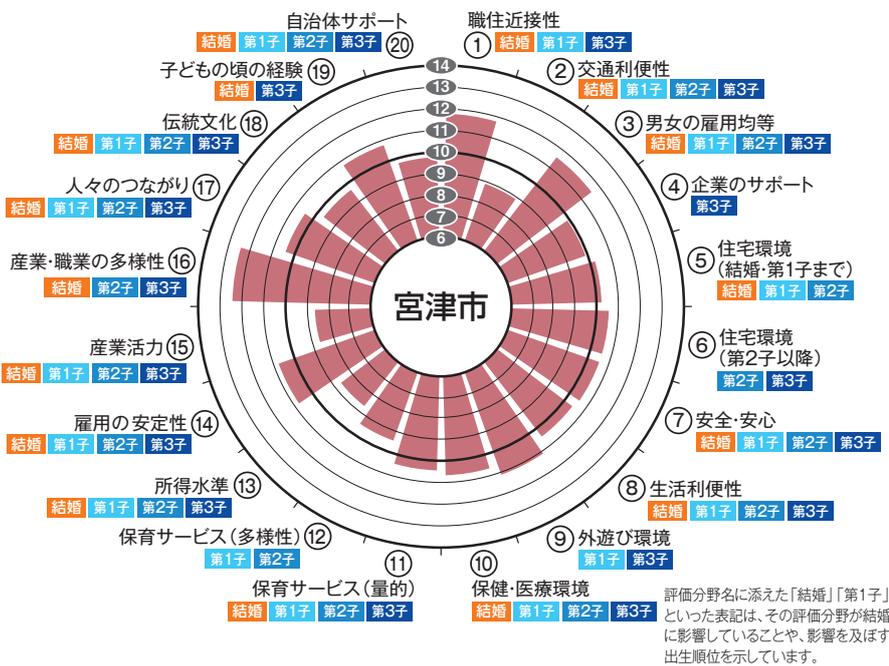
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、一戸建て比率(住宅環境(第2子以降))、林野面積割合(外遊び環境)等が平均を上回っている様子がわかります。一方、公共交通利用率(交通利便性)、雇業者一人当たり雇業者所得(所得水準)が平均を下回っています。

(注) 括弧の中は評価分野

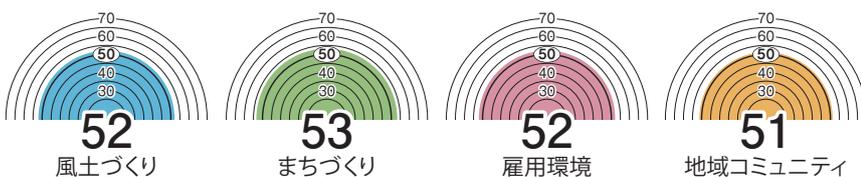
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート
(評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切にすまに
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ①職住近接性、③男女の雇用均等、⑭雇用の安定性、⑯産業・職業の多様性といった産業や働き方に関わる評価分野のスコアが高く、出生率が高い府北部の特徴が表れています。いずれも有配偶出生率に加え、結婚に影響を及ぼす評価分野です。一方、産業関連の⑬所得水準と⑮産業活力はスコアが低く、出生率に対してマイナスになっているとみられます。
- ②交通利便性や⑫保育サービス(多様性)が平均を下回りますが、自家用車の利便性が高く、三世帯同居の割合が高いといった、②、⑫を補完する地域特性が反映されている可能性があります。